

国史跡檜山安東氏城館跡

# 檜山城跡IV

— 令和元年度第4次発掘調査報告書 —



2020.3  
能代市教育委員会



ひ やま じょう あと  
檜 山 城 跡IV

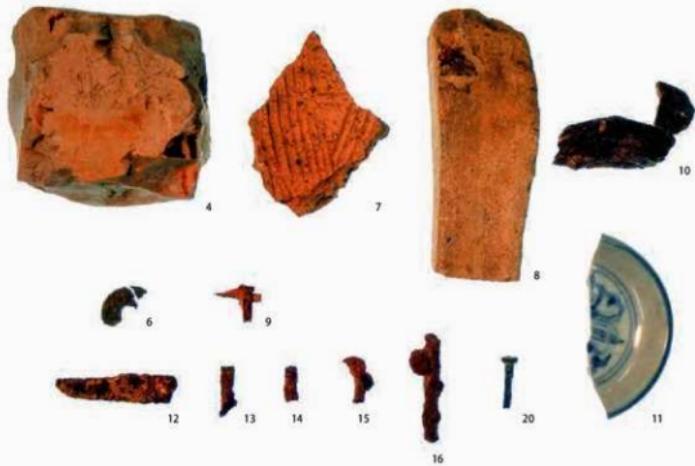
— 令和元年度第4次発掘調査報告書 —

2020.3  
能代市教育委員会





①出土遺物

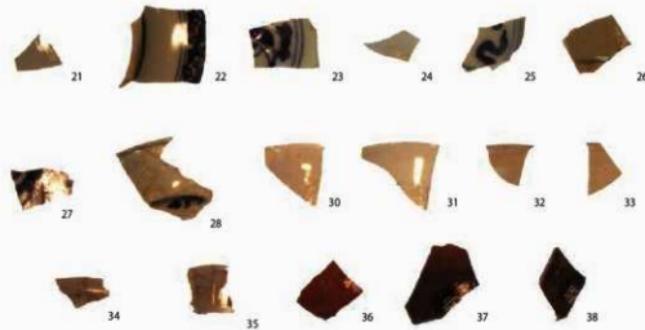


②遺構内出土遺物

巻頭カラー2



③ 造構外出土遺物 陶磁器①外側



④ 造構外出土遺物 陶磁器①内側

## 序

本書は、令和元年度に実施した檜山城跡の第4次調査の成果をまとめたものです。

能代市では、これまで檜山地区を歴史の里と位置づけ、各種の施策を行ってまいりました。城跡や町並み散策などに訪れる人たちのための案内看板の設置や、北限の茶として知られる檜山茶の茶揉み体験などの名産を生かした事業も行われています。檜山城跡の調査もまた、その一環に位置づけられて、地域振興につなげていくことが求められております。

檜山城跡は、昭和55年に大館跡、茶臼館跡とともに、檜山安東氏城館跡として国史跡に指定されました。平成28年度から国庫補助事業による発掘調査を行い、令和元年度は第4次調査を実施しました。

調査の結果、通称「本丸」の造成の痕跡や、建物の可能性のある柱穴群などが検出されたほか、15世紀末から17世紀初頭に属する陶磁器や、金属製品、弾、製鉄関連遺物などが見つかりました。また、中館から茶園への尾根筋や、將軍山地区から南に延びる白坂道では、城内道の造成を行っている様子が明らかになりました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保護のため、中世城館研究のために広く活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本事業の実施にあたり、ご指導、ご助言を賜りました文化庁記念物課ならびに史跡檜山安東氏城館跡調査整備委員会をはじめ、関係機関の皆様に感謝申し上げます。

令和2年3月

能代市教育委員会  
教育長 高橋誠也

## 例　言

- 1 本報告書は、令和元年度に能代市教育委員会が調査を実施した檜山城跡の発掘調査報告書である。  
当事業は国宝重要文化財等保存・活用費補助金の交付を受けて実施した。
- 2 本報告書の執筆は能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課公民館文化係主席主査播磨芳紀が担当した。
- 3 調査は文化庁及び秋田県教育委員会の指導を得て、能代市教育委員会が実施した。
- 4 調査及び本報告書の刊行にあたって次の方々からご指導・ご教示を賜った。(五十音順、敬称略)  
秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 新井崇之 五十嵐一治 伊藤直子 近江俊秀 木戸雅寿  
工藤清泰 栗山知士 小山美紀 斎藤利男 斎藤慶史 嶋影壯憲 高橋 学 檜山地域まちづくり協  
議会 藤澤良祐 文化庁 八重樫忠郎 山口義伸 吉川耕太郎
- 5 本調査に関する全ての資料は能代市教育委員会が保管している。

## 凡　例

- 1 遺構実測図等に付した方位は座標北である。
- 2 本報告書挿図中に使用した土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に掲載した。
- 3 土層注記は基本層序にローマ数字を用い、遺構埋土にはアラビア数字を用いた。
- 4 遺構・遺物には以下の略記号を使用した。

S D 堀切・溝状遺構 S K 土坑 S K P 柱穴様ピット S M 道路跡  
R P 土器・陶磁器 R M 金属関連遺物 S 碟 R 根

## 目　次

### 巻頭カラー

### 序

### 例言・凡例・目次

|                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 第1章 檜山城跡の概要 ······ 1 | 第3章 調査の記録 ······ 9     |
| 第1節 檜山城跡の立地 ······ 1 | 第1節 検出遺構と出土遺物 ······ 9 |
| 第2節 歴史的環境 ······ 2   | 第2節 現状変更判断試掘調査 ··· 26  |
| 第2章 調査の概要 ······ 6   | 第4章 まとめ ······ 30      |
| 第1節 調査に至る経緯 ······ 6 | 図版                     |
| 第2節 調査要項 ······ 6    | 抄録                     |
| 第3節 調査の目的 ······ 7   |                        |
| 第4節 調査の経過 ······ 7   |                        |
| 第5節 調査の方法 ······ 8   |                        |

# 第1章 檜山城跡の概要

## 第1節 檜山城跡の立地

檜山城跡の所在する能代市は、日本海に面し、米代川河口部に港をもち、下流域に開けた能代平野に都市域が広がり、河川流域に集落が点在する。檜山城跡は能代平野に接して檜山川の発する丘陵部に位置する。現在の檜山集落の裏山のようなかたちで見下ろす霧山にあったのが檜山城跡で、霧山城とも呼ばれていた。現在公園となっている部分が古城(ふるしろ)と呼ばれる場所にある。

米代川河口からは約12km内陸に位置し、標高は最高所の將軍山が約165m、古城地区の通称「本丸」が約146mほどである。地質は女川層の未固結を含む軟質の泥岩が基盤層として広く確認されているほか、古城地区には約20万年前の海成層である石倉山層が確認でき、更にその上に15万年前に形成された古砂丘が堆積している場所も見られる。石倉山層は図3の地質図に拠れば、沢を挟んだ北側尾根上の中館と呼ばれる周辺にも分布している。また、將軍山地区の女川層の上層にはシルト粘土の堆積も確認できる。なお、未固結泥岩のことを地元ではアマジャ

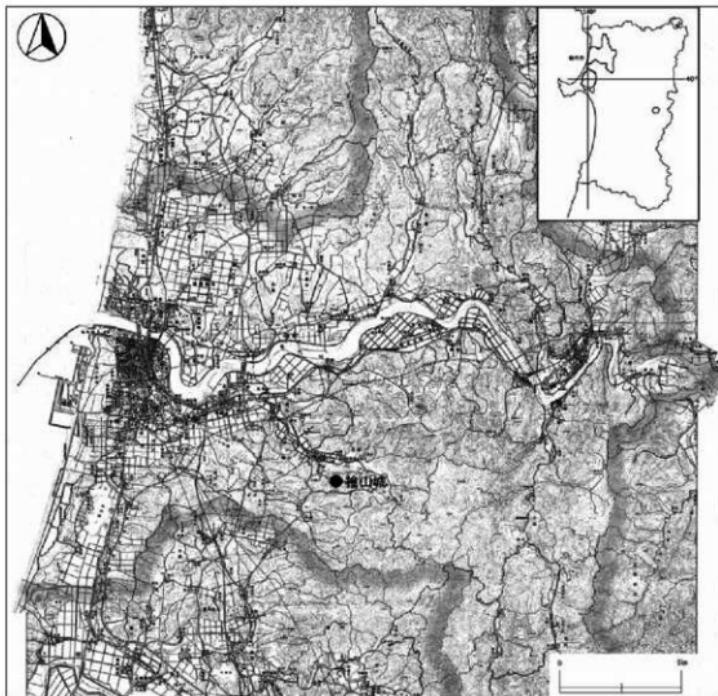


図1 遺跡位置図

クと呼んでおり、本報告書では土層注記等の表記に用いた箇所もある。

檜山城跡を中心として地理的特徴をみてみると、史跡指定されている丘陵の北側裾野を檜山川が西流し、その対岸、檜山城跡の北東方向に、檜山城を築城したとされる安東忠季の菩提寺国清寺の跡があり、その東の丘陵に安東愛季の再興した八幡神社が現存する。

西裾側は現在の檜山の町並みや、近世多賀谷氏の居館のあった茶臼山があり、その西を近世絵図にむじりき川として描かれる小川が流れる。これらを挟んだ対岸の丘陵は茶臼館跡であり、一連の檜山城下町を形成していたと見られる。東側には沢が入り込んで城を区画し、南側も急峻な沢地形で山城の要害的機能を生み出している。一方で、南東側には尾根上を通て三種町岩川方面へと抜ける山道がある。城の防御機能としては地形が緩やかであるため、大堀切がつくられ、城を画している。

## 第2節 歴史的環境

檜山川流域とその周辺には旧石器時代から近世までの遺跡が存在する。檜山城の使用された中世に属する遺跡は19遺跡あり、安東氏に関わる伝承を持つ遺跡も含まれる。

檜山城が築城された年代を、近世史料である「新羅之記録」の記述を元に明応4年(1495年)とするのが通説であるが、同時代史料からは、檜山城や檜山集落の存在は現在のところ確認できない。それ以前には、能代平野周辺が元慶2年(878年)に起きた住民蜂起の際の野代村の所在地であるとも考えられ、檜山城跡とともに史跡を構成する大館跡(11)は、当時の律令国家側の拠点「野代營(のしろたむろ)」の擬定地ともされる。ところが能代市管内では9世紀後半の遺跡数は少なく、檜山周辺でも集落や鉄生産遺跡(37,38)、祭祀遺跡(33)などの10世紀の遺跡が多く見られる。なお、檜山川流域のほ場からは、9世紀に属する遺物も見つかっているが、表探であり、詳細は不明である。

その後、檜山地域でも15世紀までの須恵器系陶器は散見されるが、羽州街道の前身となる街道や集落、城館の有無についての情報が少ないので実状である。文献から15世紀末とされる檜山城の築城後には、安東氏代々の居城として、城下に町場が形成、あるいは拡大していったことが想定される。近世以前には街道がある程度整備され、檜山川を使った舟運も含めた交通体系が出来上がっていたと思われる。

北方と関係の深い、地城色の濃い信仰として古四王神社の存在があり、現在は檜山神社となっている古四王神社が近世には茶臼館跡(19)にあったことが江戸期の絵図から読み取れる。

このほかにも中世の痕跡として、国清寺跡(16)や母体八幡神社、安東氏代々の菩提寺など縁の深い社寺が残るほか、檜山舞と名付けられた番楽が母体地区に伝わっている。近世の文献で檜山安東氏によって町立てされたとされる野代湊から米代川流域の鶴形地区まで、安東氏との結びつきが想定される日吉神社や、そのほか文化財や伝承などの分布が中世安東氏の存在を示している。

近世には佐竹氏の置いた小場氏が檜山城を使用したと考えられ、その後多賀谷氏が居城として入城したとされる。檜山城とは羽州街道を挟んだ西にある茶臼山に多賀谷氏の居館(18)がつくられる一方で、檜山城は元和6年(1620年)に破却された。米代川河口の野代湊は佐竹氏によって一層整備され、秋田湊と並ぶ重要な湊として使用された。檜山地区でも檜山の町を通る羽州街道や一里塚(8)、街道の松並木などが整備され、今もその痕跡を見ることができる。

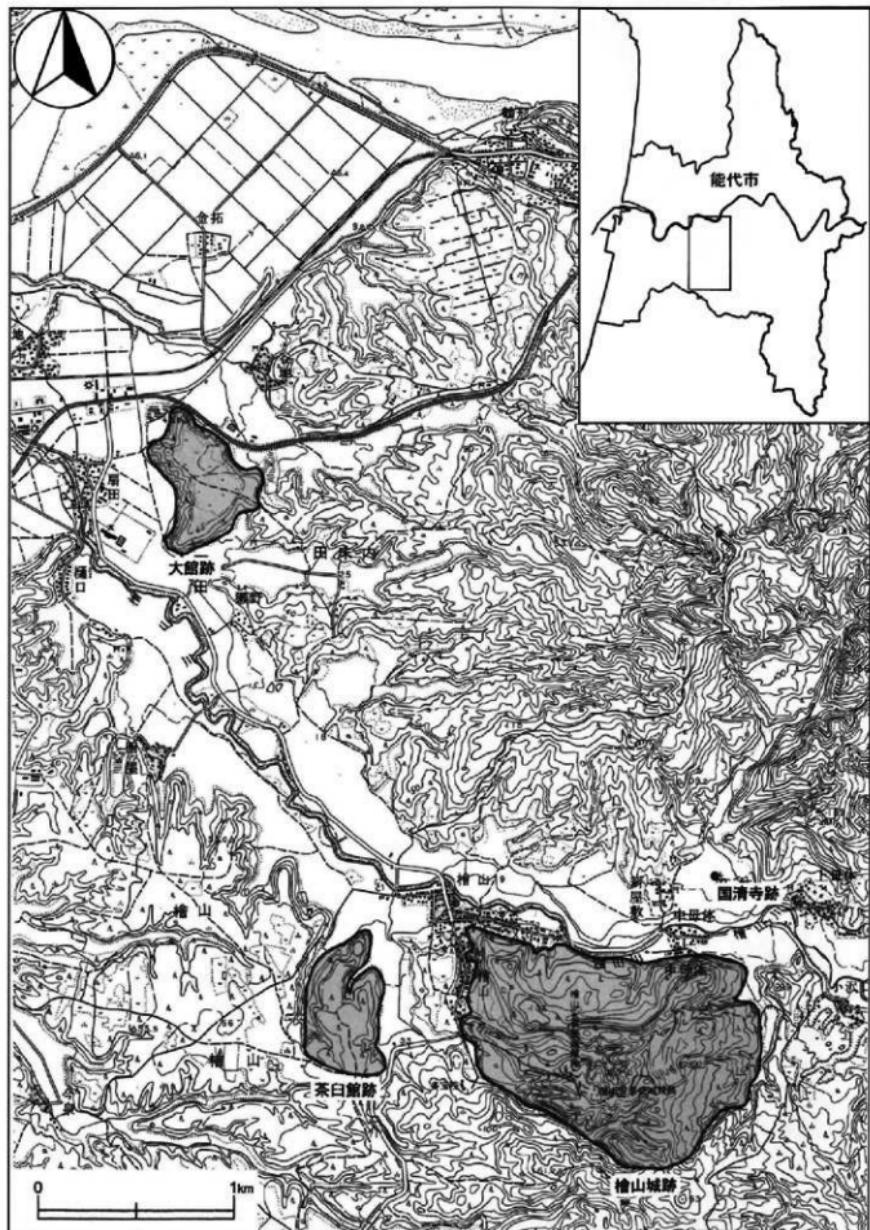


図2 史跡楓山安東氏城館跡位置図



図3 檜山城跡周辺地質図

(「能代市史 特別編 自然」付図をトレースして改変)

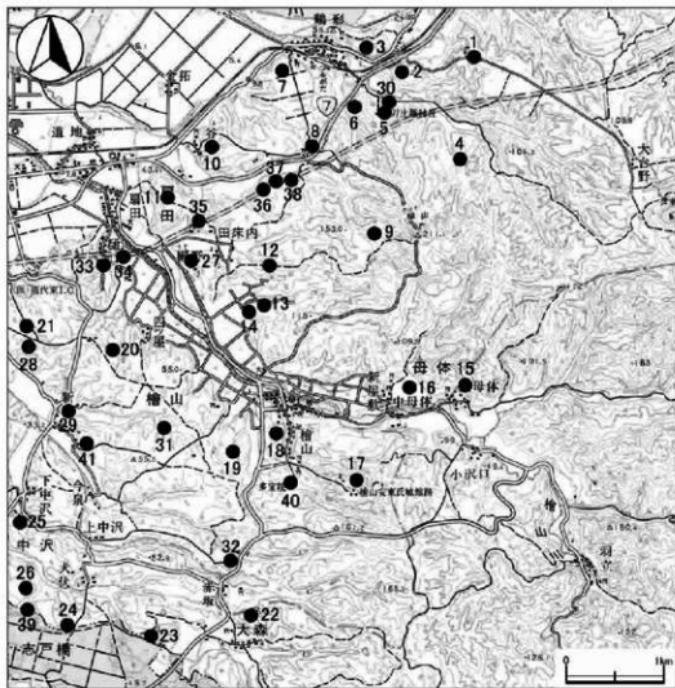


図4 周辺遺跡分布図

| 番号 | 遺跡番号  | 遺跡名     | 所 在 地        | 時 代   | 番号 | 遺跡番号  | 遺跡名       | 所 在 地      | 時 代       |
|----|-------|---------|--------------|-------|----|-------|-----------|------------|-----------|
| 1  | 2-92  | 鶴形大台野遺跡 | 能代市字大台野      | 縄文    | 21 | 2-114 | 苗代沢遺跡     | 能代市鷲洞字苗代沢  | 古代。中世     |
| 2  | 2-94  | 赤館跡     | 能代市字外堤       | 中世    | 22 | 2-115 | 大森跡跡      | 能代市大森字大森   | 中世        |
| 3  | 2-95  | 比丘尼館跡   | 能代市字外堤       | 中世    | 23 | 2-116 | 大森大台野遺跡   | 能代市大森字大台野  | 縄文        |
| 4  | 2-96  | 山神社前遺跡  | 能代市山神社前      | 縄文、古代 | 24 | 2-117 | 中沢大台野遺跡   | 能代市大森字大台野  | 縄文        |
| 5  | 2-97  | 鶴形窯跡    | 能代市字山崎       | 近世    | 25 | 2-118 | 古館跡       | 能代市中沢字横古館  | 古代。中世     |
| 6  | 2-98  | 大館跡     | 能代市字上草沢      | 古代    | 26 | 2-126 | 樋口ノ台遺跡    | 能代市中沢字樋口ノ台 | 縄文        |
| 7  | 2-99  | 上ノ山遺跡   | 能代市字上の山      | 中世。近世 | 27 | 2-169 | 瀬野遺跡      | 能代市扇田字瀬野   | 中世        |
| 8  | 2-100 | 鶴巣一里塚   | 能代市字上の山・谷地地上 | 近世    | 28 | 2-171 | 新田沢遺跡     | 能代市植山字新田沢  | 縄文        |
| 9  | 2-101 | 八重振館跡   | 能代市字山神社前     | 古代。中世 | 29 | 2-172 | 中瀬戸沢遺跡    | 能代市植山字中瀬戸沢 | 古代        |
| 10 | 2-102 | 谷地館跡    | 能代市字田中谷地     | 古代。中世 | 30 | 2-173 | 山崎道路      | 能代市字山崎     | 古代        |
| 11 | 2-103 | 大館跡     | 能代市田床内字大館    | 古代。中世 | 31 | 2-180 | 上平張遺跡     | 能代市植山字上平張  | 中世        |
| 12 | 2-104 | 二又遺跡    | 能代市田床内字二又    | 古代    | 32 | 2-195 | 瓶長根遺跡     | 能代市中沢字瓶長根  | 縄文        |
| 13 | 2-105 | 三岳館跡    | 能代市植山字上館     | 縄文、古代 | 33 | 2-199 | 樋口遺跡      | 能代市扇田字樋口   | 古代        |
| 14 | 2-106 | 三岳遺跡    | 能代市植山字上館     | 縄文    | 34 | 2-200 | 岩ノ目遺跡     | 能代市扇田字岩ノ目  | 縄文、古代     |
| 15 | 2-107 | 上母体遺跡   | 能代市母体字上母体家の下 | 縄文    | 35 | 2-201 | 綿手下遺跡     | 能代市田床内字綿手下 | 旧石器、縄文、古代 |
| 16 | 2-108 | 国清寺跡    | 能代市植山字蟹蟹     | 中世    | 36 | 2-202 | 鶴巣館跡      | 能代市田床内字鶴巣  | 古代。中世     |
| 17 | 2-109 | 植山城跡    | 能代市植山字吉城     | 中世。近世 | 37 | 2-203 | 鶴巣 I 遺跡   | 能代市字鶴巣     | 古代        |
| 18 | 2-110 | 多賀谷館跡   | 能代市植山字霧山下    | 縄文、古代 | 38 | 2-204 | 鶴巣 II 遺跡  | 能代市字鶴巣     | 縄文、平安     |
| 19 | 2-111 | 茶臼跡     | 能代市植山字茶臼     | 古代。中世 | 39 | 2-206 | 鶴道 III 遺跡 | 能代市中沢字大台野  | 縄文        |
| 20 | 2-113 | 四ツ屋台遺跡  | 能代市扇田字四ツ屋台   | 古代    | 40 | 2-207 | 小間木遺跡     | 能代市植山字小間木  | 中世。近世     |
|    |       |         |              |       | 41 | 2-210 | 堀下遺跡      | 能代市植山字堀下   | 古代        |

表1 周辺遺跡一覧

## 第1章 檜山城跡の概要

### 【参考文献】

- 秋田県教育委員会 2006 「樋口道跡」秋田県文化財調査報告書第411集  
2007 「鶴巣館跡・鶴見1道跡・鶴見日遺跡」秋田県文化財調査報告書第422集  
2011 「秋田県重要遺跡調査報告書Ⅱ—檜山安東氏城館跡（大館跡）調査一」  
大沢健、鷹岡明、栗田泰夫、高安泰助、平山次郎 1985 「檜山安東氏城館跡 地域地質研究報告 地質調査所  
大沢健、池辺穂、平山次郎、栗田泰夫、高安泰助 1984 「能代地域の地質」 地域地質研究報告 地質調査所  
工藤英美 1987 「能代平野の成り立ち（その一）」『能代山本地方史研究』4号  
1992 「能代平野の成り立ち（その二）」『年報 能代市史研究』2号  
能代市 1994 「能代市史 資料編 考古」  
2000 「能代市史 特別編 百年」  
「能代市史 通史編 I 原始・古代・中世」  
「能代市史 通史編 II 近代・現代」  
「能代市史 通史編 III 現代」  
能代市教育委員会 1978 「大館遺跡発掘調査報告書」  
「享保十三年 檜山一円御絵図」  
「天保二年 檜山絵図」

## 第2章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

能代市教育委員会では、檜山城跡が檜山安東氏城館跡として昭和55年に史跡に指定された後、除草などの保存管理を行ってきた。平成10年からの網張り調査を経て、平成18年には能代市と二ツ井町が合併し、平成28年度に史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画が策定された。平成29年度から整備を行っており、そのための情報を得るために発掘調査が平成28年度から行われている。今年度は4年目の調査となる。

発掘調査は、整備のための情報を得ることを目的として、補助事業を受けて実施した。調査主体は能代市教育委員会である。

### 第2節 調査要項

遺跡名 檜山城跡：史跡檜山安東氏城館跡（檜山城跡 大館跡 茶臼館跡）

所在地 秋田県能代市檜山字古城地内ほか

調査期間 令和元年5月22日～11月27日

調査面積 約208m<sup>2</sup>

調査担当 播磨芳紀（能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課公民館文化係主席主査）

松森翔（能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課公民館文化係主事）

事務局 能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

課長田口俊成

山崎和夫

公民館文化係

係長工藤英子

主査館岡泰樹

主任布川英利子

主事高松佳奈

臨時職員工藤いくみ

臨時職員 越前谷 美和子

臨時職員 珍田 一馬

指導機関 文化庁文化財部記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県教育庁払田柵跡調査事務所、史跡檜山安東氏城館跡調査整備委員会

調査作業員 加藤文子、加藤まさ子、佐伯房志、納谷鈴子、藤田利夫、清水実、田中勝広、松嶋大輔  
整理作業員 川口久、川口奈緒

### 第3節 調査の目的

本調査は、史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画に示した発掘調査の一環として実施した。調査区は古城地区的通称「本丸」「二の丸」で、城の中心部であったと想定される地区である。「本丸」では、建物の有無や規模、東側虎口の有無を確認するために曲輪東側に調査区(HA)を設定した。「二の丸」では、「三の丸」から「二の丸」への進入路を確認するため、現在の公園遊歩道が設けられている北縁近くに調査区(NA)を設定した。「本丸」の調査区を第1調査区、「二の丸」を第2調査区、その他に「本丸」曲輪造成の痕跡を確認するため「本丸」トレント(HT)を「本丸」北西に設定した。

これらと同時に、基準杭・案内板を設置する箇所の遺構の有無を確認することを目的とした、現状変更対応のための調査を、中館から茶園に続く尾根、白坂道(しろざかみち)付近2カ所、將軍山地区南で行い、調査区名をそれぞれTP1~4とした。

### 第4節 調査の経過

発掘調査は、令和元年5月22日から断続的に11月27日の期間で実施した。現地での任意の基準点の測量も並行して行った。最初に現状変更対応のTP1を調査、6月3日に埋め戻しを終了した。6月7日には調査用道具置き場と休憩のためのコンテナハウスを設置した。6月10日から第1調査区の調査に入った。同時にTP2の調査を並行して行った。調査区南側から掘り下げを開始し、「本丸」東の括れ部分へ調査区を広げていった。堆積状況を確認しながら、精査を行い、必要に応じてサブトレントを設定し、検出遺構、遺物出土位置、堆積状況などの記録を作成した。記録はトータルステーションと手実測によった。順次、7月16日に本丸トレントを設定、翌17日より掘り下げを開始した。

7月25日、能代松陽高校のインターンシップで4名が発掘調査体験を第1調査区で行った。8月8日文化庁の現地指導を受け、翌9日調査整備委員会の指導を受けた。また、9月中に払田柵跡調査事務所の指導を受けた。

9月11日、第2調査区の掘り下げを開始した。9月19日より第1調査区の埋め戻しを開始し、第1調査区の44日間の調査は同24日に終了した。

11月7日、コンテナハウスを撤去完了した。11月11日、遺構、基本土層記録後、埋め戻し、「本丸」トレントと第2調査区の調査を終了した。並行してTP3、4の調査を実施、11月27日までの7日間で行い、今年度の調査を終了、同日に撤収を完了した。

## 第5節 調査の方法

発掘調査は、調査区を面的に広げ、遺構・遺物の有無、土の堆積状況や遺構の造成状況の確認を行った。調査の記録は図面と写真によった。設定した調査区は国家座標を持つ杭を基準にトータルステーションで測量し、その位置を基準として平面実測を行った。平面実測、遺物の出土位置実測には遺構実測システムを用い、断面や微細図には手実測で対応した。写真撮影にはデジタル一眼レフカメラを用い、一部はコンパクトデジタルカメラも併用した。

基本層序は以下のとおりで、大きく5層に分けられた。第1調査区の平場の土層を基本とした。

- I 10YR4/1 褐灰色土 表土 しまりあり 粘性弱
- II 10YR4/2 灰黄褐色土 しまりあり 粘性やや弱 炭化粒極微量 地山ブロック
- III 10YR4/3 にぶい黄褐色土 遺物包含層 しまりあり 粘性やや弱 炭化物極微量 地山ブロック
- IV 10YR5/3 にぶい黄褐色土 しまりあり 粘性弱 地山ブロック
- V 10YR6/4 にぶい黄橙色土 地山 砂質 しまりややあり 粘性やや弱

## 第3章 調査の記録

### 第1節 検出遺構と出土遺物

第4次調査は、通称「本丸」を第1調査区とし、通称「二の丸」を第2調査区に設定して実施した。そのほかに、「本丸」北西に曲輪造成の痕跡を確認するためのトレンチを設定した。第1調査区は古城地区の主要な曲輪の通称「本丸」を調査することで、城の構築時期や、古城地区の性格の一端を解明するため建物の有無や規模の確認、土の堆積状況の把握を目指して設定した。第2調査区は、「三の丸」から「二の丸」への進入路の確認、土の堆積状況や、建物の有無や規模などを確認するために設定した。

第1調査区は、南からHA1～HA5を設定した。HA4はHA4とHA4Aに分かれる。主に、HA1～HA4が平場の建物の有無を確かめるため、HA4A、HA5が本丸東側の括れた部分に想定される虎口の確認のために設定した。第2調査区はNA1として、「二の丸」出入り口の確認と建物の有無を確認するために設定した。「本丸」トレンチはHTとして、「本丸」曲輪の造成の痕跡を確認するために設定した。

検出遺構は土坑40基、溝跡9条、柱穴様ピット102基、道跡1条である。時期は、出土遺物、遺構確認面から中世～近世初頭と考えられる。

#### 1 第1調査区（図6～11）

調査区をHAとし、細分したブロック毎に番号を付した。1、2、3、4、4A、5を設定した。通称「本丸」の東辺にある括れ部分に虎口を想定して、それに続く平場に調査区を設定した。調査区の標高は約145.4～147.0mほどである。

##### 検出遺構

土坑39基、溝5条、柱穴様ピット83基を検出した。平場からやや傾斜した範囲からの検出である。半さい等掘り下げた遺構のうち、主に遺物を出土したものについて記述する。

4A、5では、盛土が確認された。4の南西から3の北東、5の南で切岸状に地山が切られていることが確認できた。5では粘土範囲も確認されている。4Aでは、黒褐色土の盛土の下にステップ状の地形が確認されたが、硬化面は見つからなかった。4、4Aでは黒褐色土層の上層に暗褐色土層の整地層がみられ、生活面があったと考えられる。やや硬化面と思われる部分も4北東サブトレ内で確認できる。

##### S KO1 土坑

HA1に位置する。地山面で検出した。土層は5層に分けられた。

##### S KO2 土坑

HA1に位置する。地山面で検出した。土層は5層に分けられた。

##### S KO3 土坑

HA1に位置する。地山上層で検出した。土層は3層に分けられた。唐津1点が出土した。

##### S KO4 土坑

H A 1 に位置する。地山上層で検出した。土層は4層に分けられた。1層は検出面の堆積土と考えられる。大窯1点、中国産染付1点、鉄製品が出土した。

#### S K O 5 土坑

H A 1 に位置する。地山上層で検出した。土層は9層に分けられた。土器1点、鉄製品1点が出土した。

#### S K O 8 土坑

H A 1 に位置する。地山上層で検出した。土層は2層に分けられた。

#### S K O 9 土坑

H A 1 に位置する。IV層中で検出した。土層は4層に分けられた。底部に2つの掘り込みを持つ。大窯4前の折縁皿、唐津碗、釘3点が見つかった。

#### S K I 0 土坑

H A 1 に位置する。土層は12層に分けられた。大窯4前の折縁皿、唐津碗、釘などが見つかった。

S K P O 3 3、O 4 4 に切られる。

#### S K I 1 土坑

H A 1 に位置する。土層は9層に分けられた。堆積土は6層までが砂質で、7層以下が粘土質が増していく。9層は炭の層で焼土はみられない。志野鉄絵皿1点、砥石1点が出土した。

#### S K I 2 土坑

H A 1 に位置する。土層は単層である。S K P O 1 7 と切合、当遺構の方が新しい。唐津と釘が出土した。

#### S K I 3 土坑

H A 1 に位置する。地山面で検出した。土層は3層に分けられた。S K O 1 に切られる。

#### S K I 6 土坑

H A 2 に位置する。土層は3層に分けられた。S D 1 5 に切られる。大窯2丸皿が出土したほか、確認面で釘が出土した。

#### S K I 7 土坑

H A 3 に位置する。土層は5層に分けられた。上層2層は近代以降の堆積である。南東にS K P 1 基を持つ。龍泉窯青磁鉢の破片が4点、大窯2皿1点、絵唐津、釘、銭貨などが出土した。

#### S K I 8 土坑

H A 1 に位置する。土層は5層に分けられた。S K P O 4 2 と切合。O 4 2 が未調査であるため、新旧は判然としない。折れた短小な釘7点を含む鉄製品が出土した。

#### S K I 9 土坑

H A 1 に位置する。土層は3層に分けられた。1層はIV層が入り込んでいる。底部に掘り込みを持つ。釘が出土した。

#### S K I 2 2 土坑

H A 3 に位置する。9層に分けられた。1層は表土である。S K P 1 1 6 と切合。底部に浅い掘り込みを持つ。備前系捕鉢や唐津、砥石、釘が出土した。S K P 1 1 6 からは確認面で大窯1点が出土した。

#### S K 2 6 土坑

H A 2 に位置する。2層に分けられた。中国産染付皿1点のほか、折れたものを含む釘がまとめて出

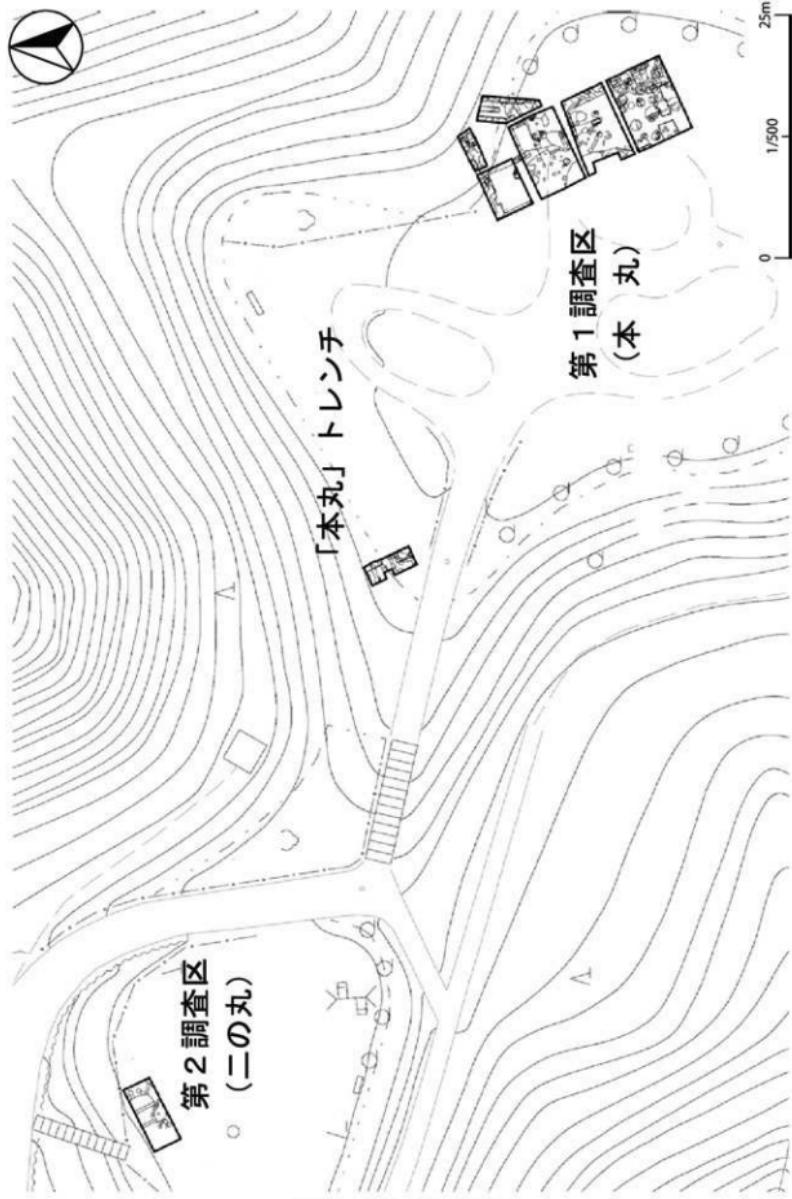


図5 調査区位置図

土した。

#### SK28土坑

H A 2 に位置する。6層に分けられた。底部に浅い掘り込みを持つ。

#### SK51土坑

H A 2 に位置する。15層に分けられた。上部7層は検出面より上の堆積層である。底部に掘り込みを持つ。複数のSKPと切合う。

#### SD15溝跡

H A 2 に位置する。北西から南東方向に延び、南東端はH A 2 中央で終わっている。4層に分けられた。

SK16を切る。中国産染付皿、白磁、大窯皿、絵唐津、刀子、釘が出土した。

#### SK35溝跡

H A 3 に位置する。H A 3 南東壁から中央に延び、北東に屈曲する溝として検出した。中央サブトレーナーから曲がって以降のプランは不明瞭である。土層は3層に分けられた。SK17に切られるほか、H A 3 中央でSKPO65に切られる。大窯3丸皿とかわらけ、釘、軽石が出土した。

#### SKPO09

H A 1 に位置する。土層は6層に分けられた。6層は粘土質が強い。炭が小枝状や材の形を保ったまま出土している。底部に掘り込みを持つ。SKPO44に切られる。中国産染付端反輪花皿が破片で出土し接合した。釘が出土した。

#### SKPO44

H A 1 で位置する。土層は3層に分けられた。炭を多量に含む。SK10、SKPO09を切る。大窯3前丸皿、唐津皿、志野、釘、棒状の銅製品が出土した。

#### SKPO67

H A 3 に位置する。土層は6層に分けられた。SKPO68と切合う。おそらく2層相当の堆積中で残存値約1cmの骨が出土した。

#### 遺構外出土遺物（図14～17、巻頭カラー、図版21・22）

陶器は、大部分が中世から近世初頭に属する。わずかに肥前磁器がみられる。器種としては碗、皿が多く、小杯、天目茶碗、茶入、捕鉢などがみられる。そのほかに、かわらけ、瓦質土器なども出土した。遺物包含層は、表土、擾乱層の下層となるが、擾乱層からの出土も多い。SK17出土の青磁鉢の破片はH A 3、5に分布していた。

鉄製品には刀子、板状、釘、棒状、形態不明のものがみられ、金属製品として、錢貨や彈、線状や、容器の口縁部とみられる銅製品がみられた。琥珀と思われる個体が削れた状態で出土した。土製品として土鍾、鐵闕連遺物として、フイゴ羽口、鐵滓、鐵塊と思われる磁着する塊などが出土している。また、溶融した破片や粘土の広がりも工房の機能との関連が想定される。

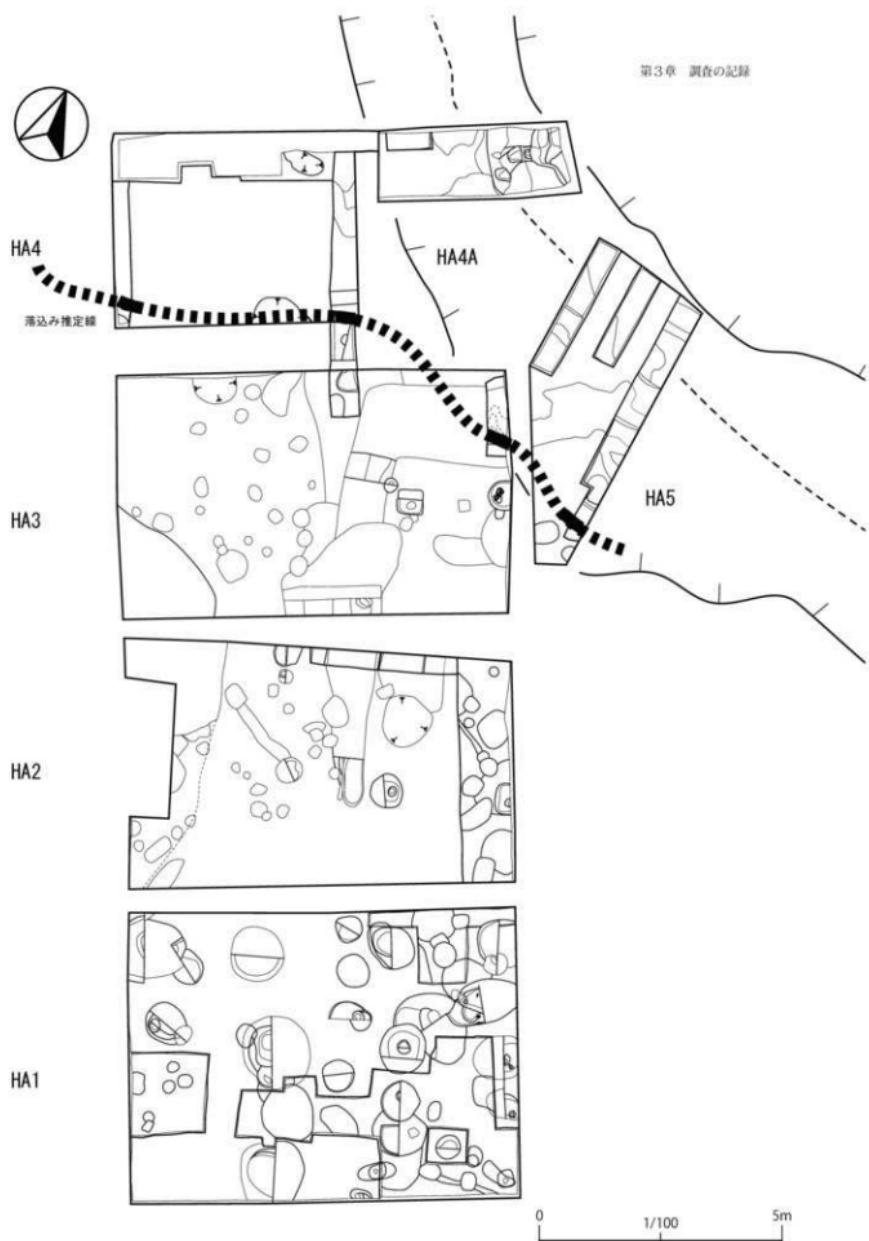


図6 第1調査区全体図

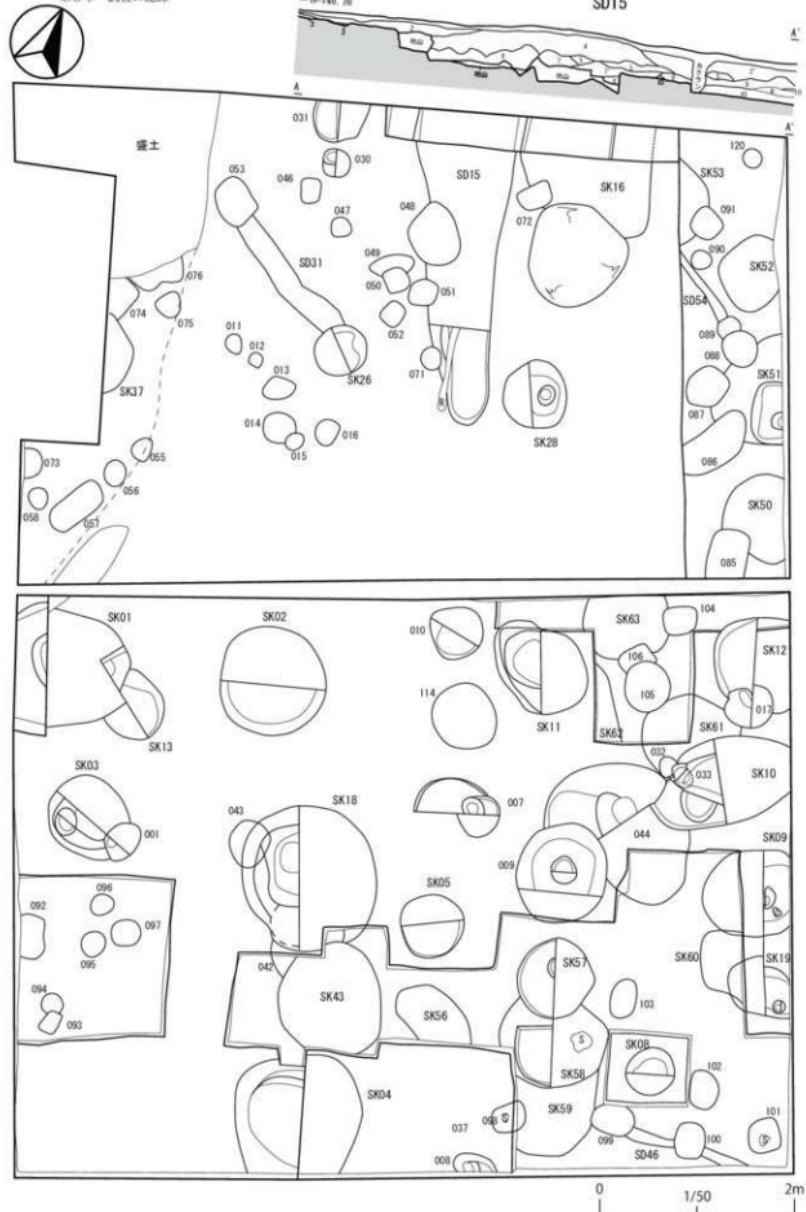


図7 HA1, 2・SD15溝跡土層

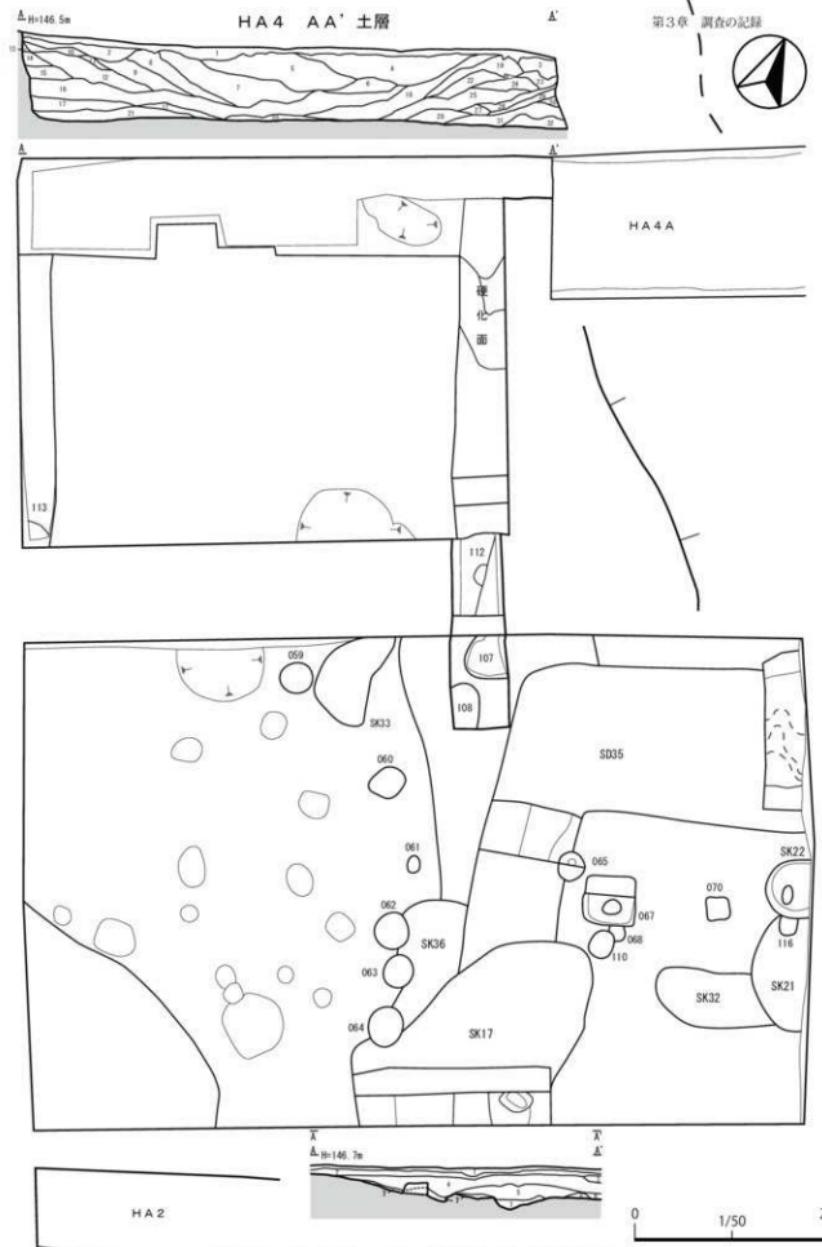


図8 HA3、4 · SK17土坑土層

### 第3章 調査の記録

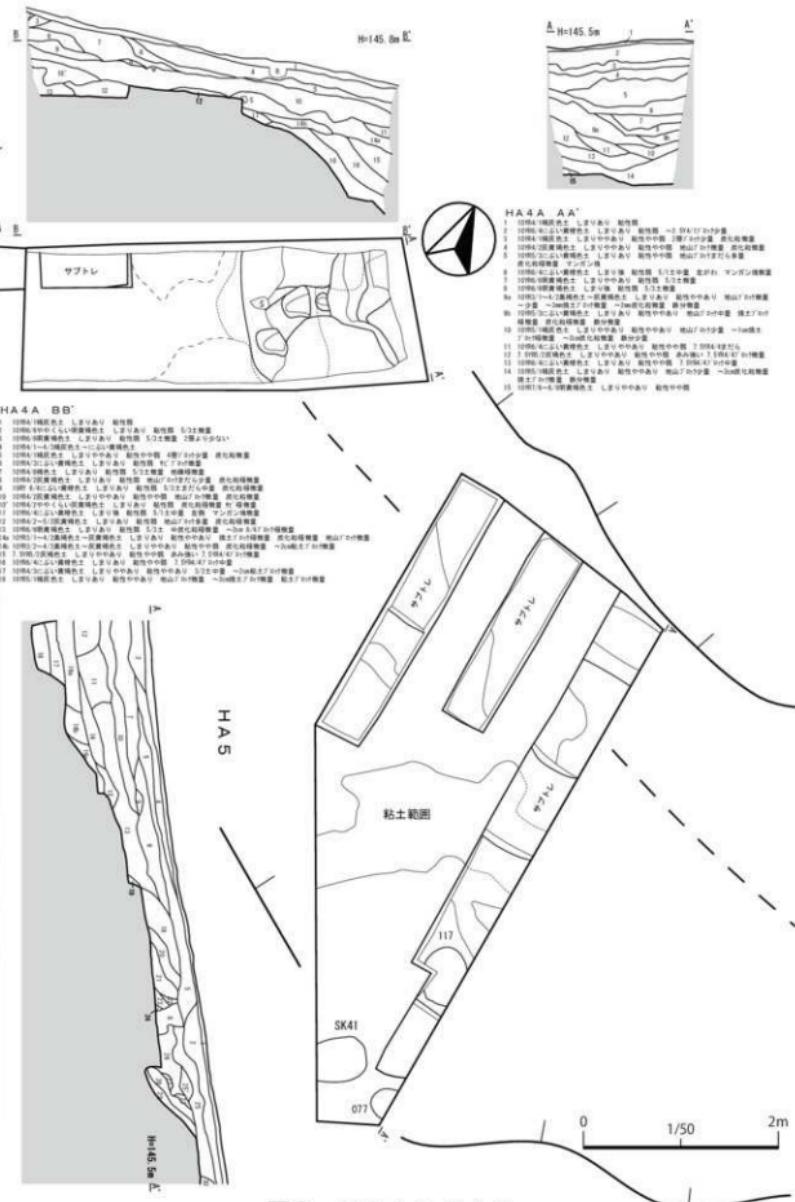


図9 HA4A、HA5



第3章 調査の記録



図11 SD溝跡・SKP柱穴様ピット

(土層注記)

S.D.15  
 1 10月15日(日) 17時より、山形市立総合文化会館にて開催。～10時迄の午前中は、地元の音楽団体による音楽演奏や歌謡公演等が行われた。  
 2 10月15日(日) 5時～7時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 3 10月15日(日) 10時～11時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 4 10月15日(日) 11時半～12時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 5 10月15日(日) 12時半～13時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 6 10月15日(日) 13時半～14時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 7 10月15日(日) 14時半～15時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 8 10月15日(日) 15時半～16時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 9 10月15日(日) 16時半～17時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。  
 10 10月15日(日) 17時半～18時半にかけて、山形市立総合文化会館にて開催。しまさうり・歌謡公演、花火大会等が行われた。

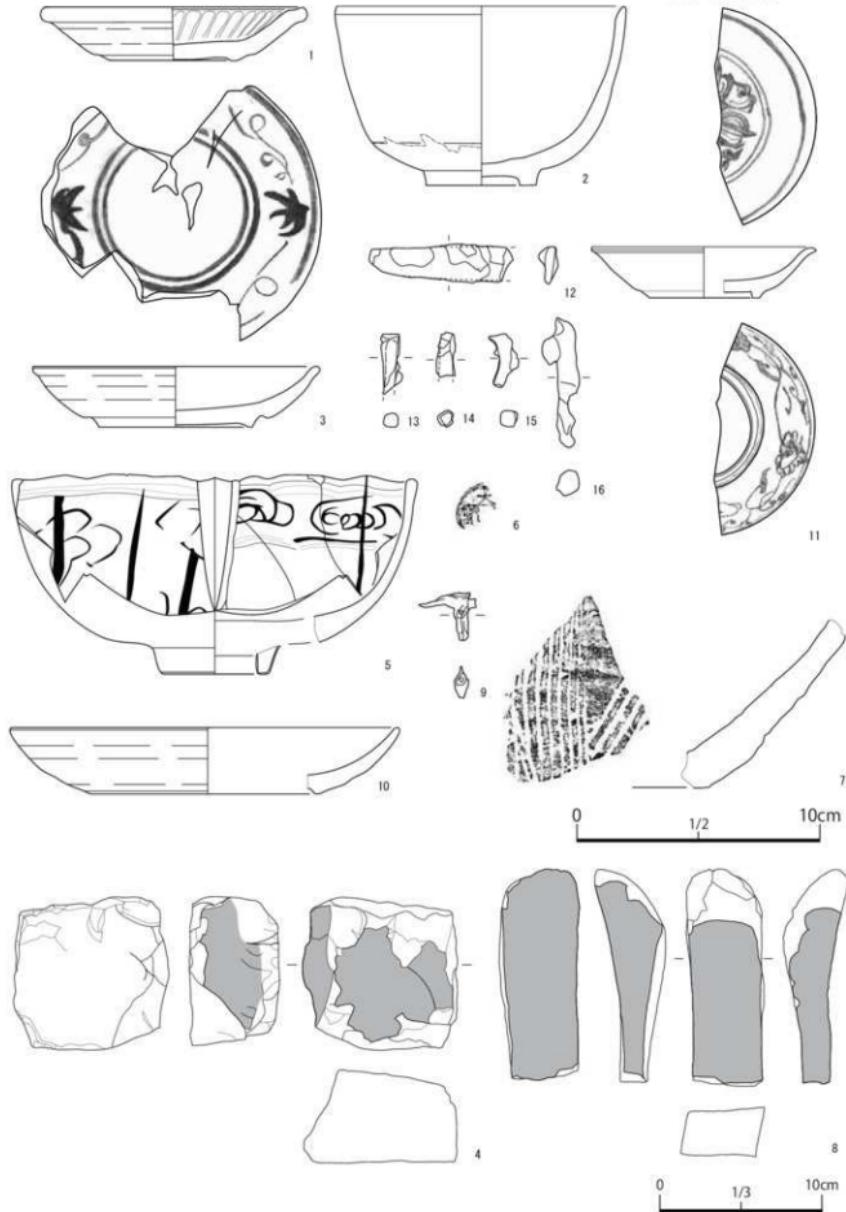


図12 遺構内出土遺物(1)

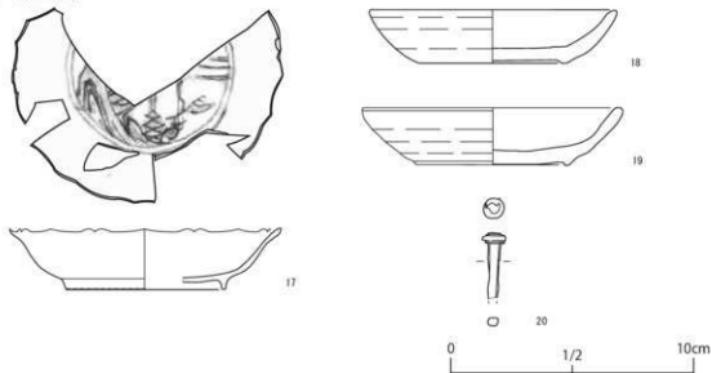


図13 遺構内出土遺物(2)

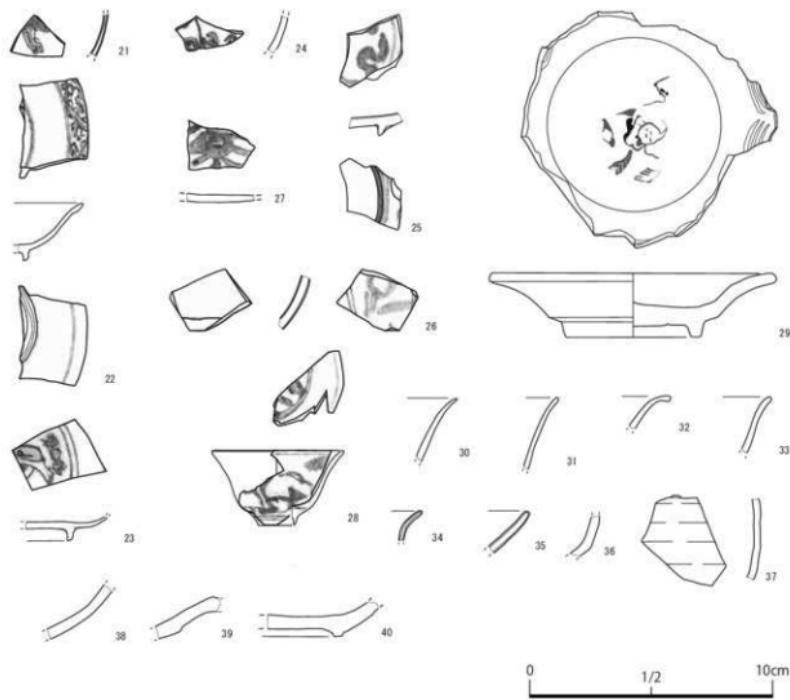


図14 遺構外出土遺物(1) 陶磁器1

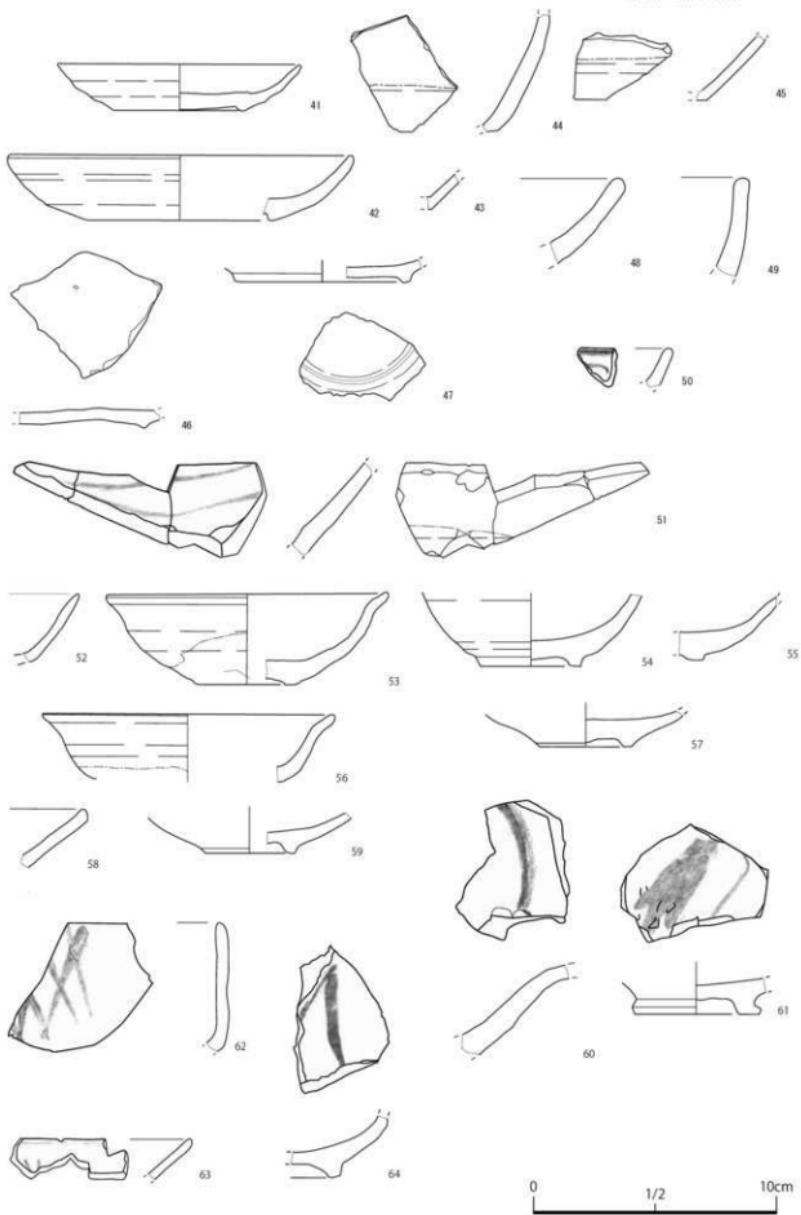


図15 遺構外出土遺物（2）陶磁器2

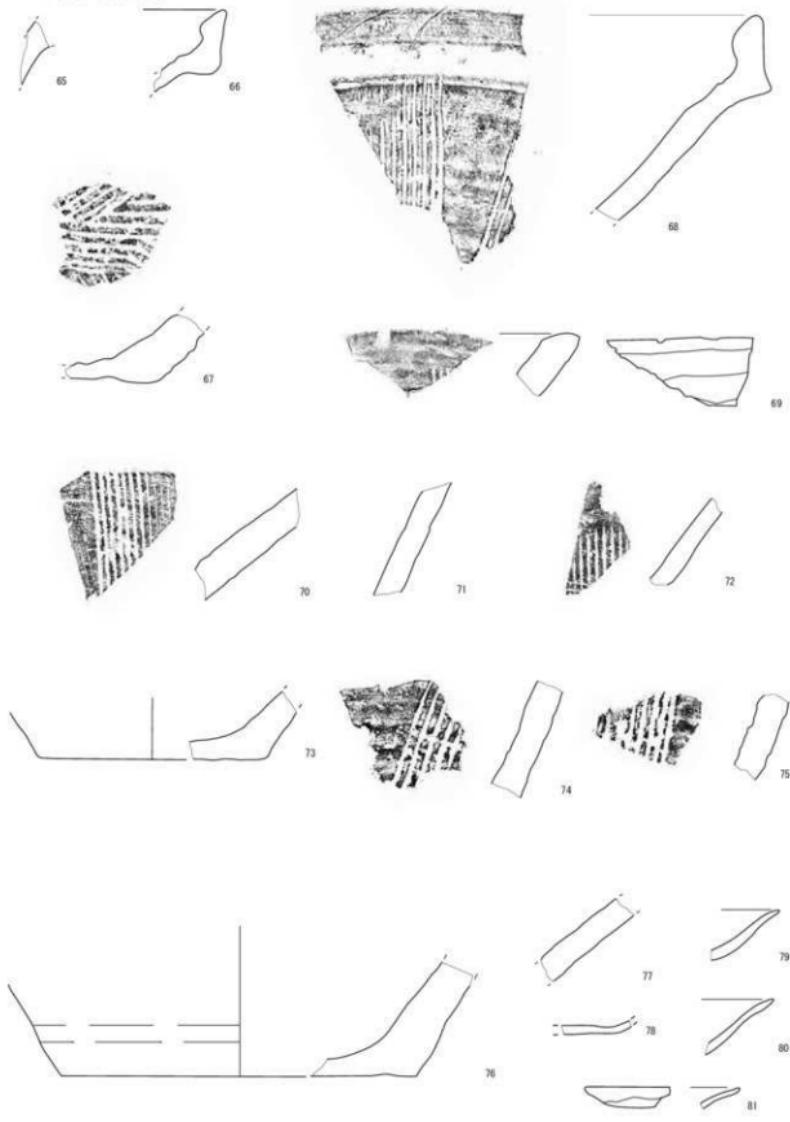


図16 遺構外出土遺物（3）陶磁器3・土器

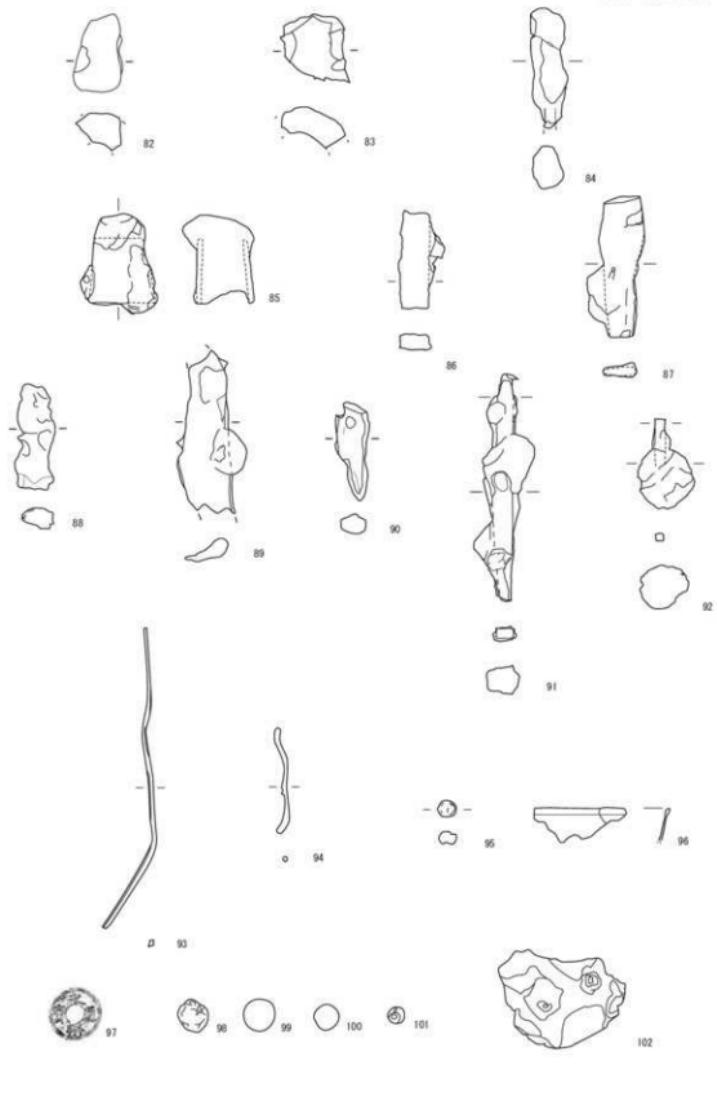


図17 遺構外出土遺物（4）土製品・金属製品・鉄滓

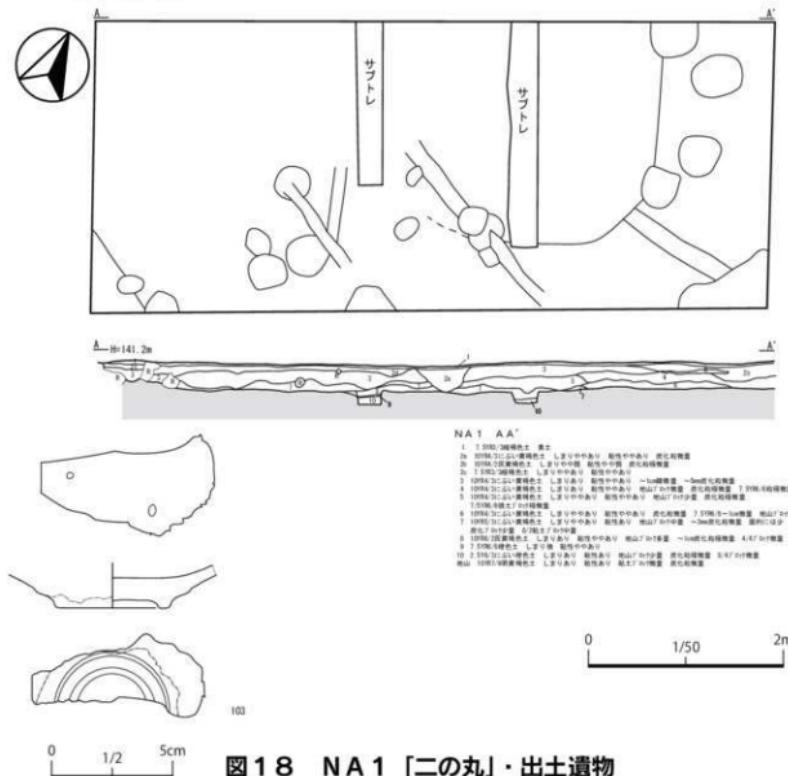


図18 NA1「二の丸」・出土遺物

## 2 第2調査区

### NA1「二の丸」(第18図)

通称「二の丸」北縁の遊歩道の登り口付近の平場に、「三の丸」からの進入口を確認するため設定した。調査区の標高は、約141.6~141.7mほどである。

#### 検出遺構

溝3条、柱穴様ピット16基が検出された。溝は南東から北西へほぼ並行しており、一連の造構の可能性がある。これらの中以外に、北縁に向かってやや落ち込む地形が確認された。硬化面は確認されていない。

#### 出土遺物(図18、図版21)

中国産染付、茶入や、国産の大窯、唐津皿(103)、釘や板状鉄製品などが出土した。近世以降の遺物も出土している。

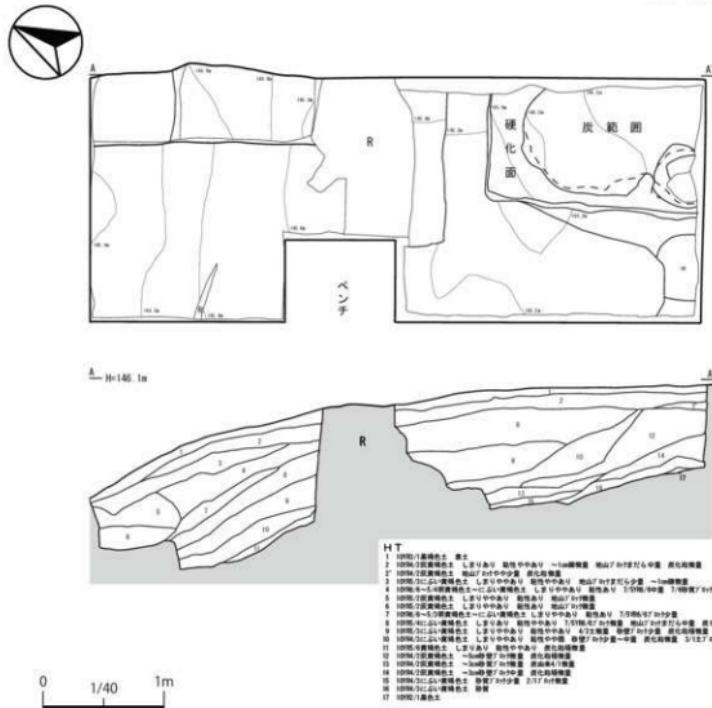


図19 HT「本丸」トレンチ

## 3 「本丸」トレンチ

## HT (第19図)

通称「本丸」の北西部に、造成の様相を確認するため、切岸から平場にかけて設定した。「二の丸」から「本丸」への遊歩道の北側にあたる。標高は約145.1~146.1mである。地山までは掘り下げていない。

## 検出遺構

土坑1基、柱穴様ピット1基が検出された。また、明黄褐色土と、にぶい黄褐色土による切岸の造成の痕跡が確認された。平場では、硬化面と炭の堆積層が見つかった。

## 出土遺物

釘1点が出土した。

## 第2節 現状変更判断試掘調査

発掘調査のための基準杭設置と、檜山城跡の整備の一環である案内板を設置する箇所について、覆土堆積の状況を確認するために行った。2m×3m以内のテストピット（以下TP）を設定し、確認、記録保存の後、埋め戻して現状に復旧した。

### TP1(第20、21図)

基準杭と案内板設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。中館から茶園方面に続く尾根道の星台方面への分岐点に相当する。調査区の標高は約95.4～95.8mである。

#### 検出遺構・出土遺物

溝状の落ち込みと、1基の柱穴様ピットを検出した。遺物は出土しなかった。

### TP2(第20、21図)

基準杭設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。将軍山地区から南方向に尾根伝いに城外へ延びる白坂道を望む、白坂道西側の丘陵頂部に位置する。調査区の標高は約151.5m～151.7mである。

#### 検出遺構・出土遺物

遺構は検出されなかった。全体に後世の削平の可能性がある。遺物は出土しなかった。

### TP3(第20、22図)

案内板設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。将軍山地区から南方向に尾根伝いに城外へ延びる白坂道上に相当する。地表面の観察からは土橋状の尾根として確認できる。調査区の標高は約142.2m～142.6mの馬の背状の尾根である。

#### 検出遺構・出土遺物

硬化面と、盛土による造成が確認された。道跡と考えられる。硬化面は東側にスライドしており、地滑りの痕跡と推察される。遺物は出土しなかった。

### TP4(第20、22図)

案内板設置予定箇所について遺構の有無を確認するために設定した。古城地区から將軍山曲輪に続く城内道が、大堀切方面に分岐する平場上に位置する。調査区は標高約150.4mである。

#### 検出遺構

柱穴様ピット1基が検出されたほか、盛土による曲輪造成の痕跡が発見された。

#### 出土遺物（図22、図版21）

3層付近から、擂鉢1点（104）が出土した。

## 小結

TP1～4調査地点での地山はシルトで、TP1は女川層由来のアマジャク砾を多量に含む。現状変更判断のための調査であり、TP2で遺構のないことが確認できた。その他の地点では、TP1で城内

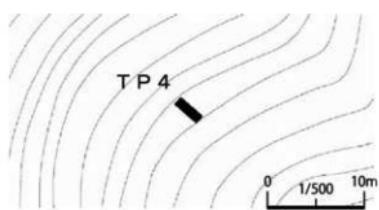
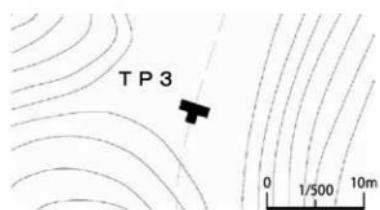
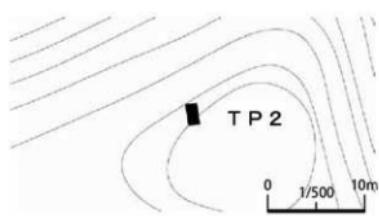
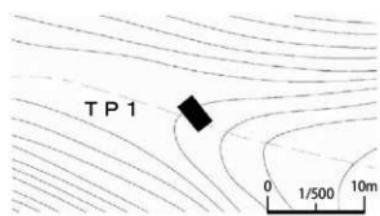
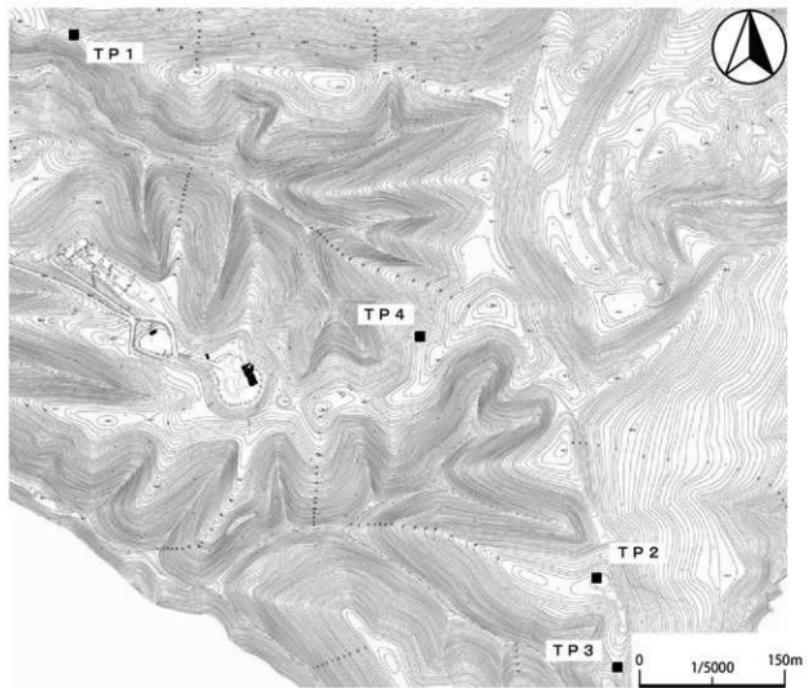


図20 TP配置図・位置図

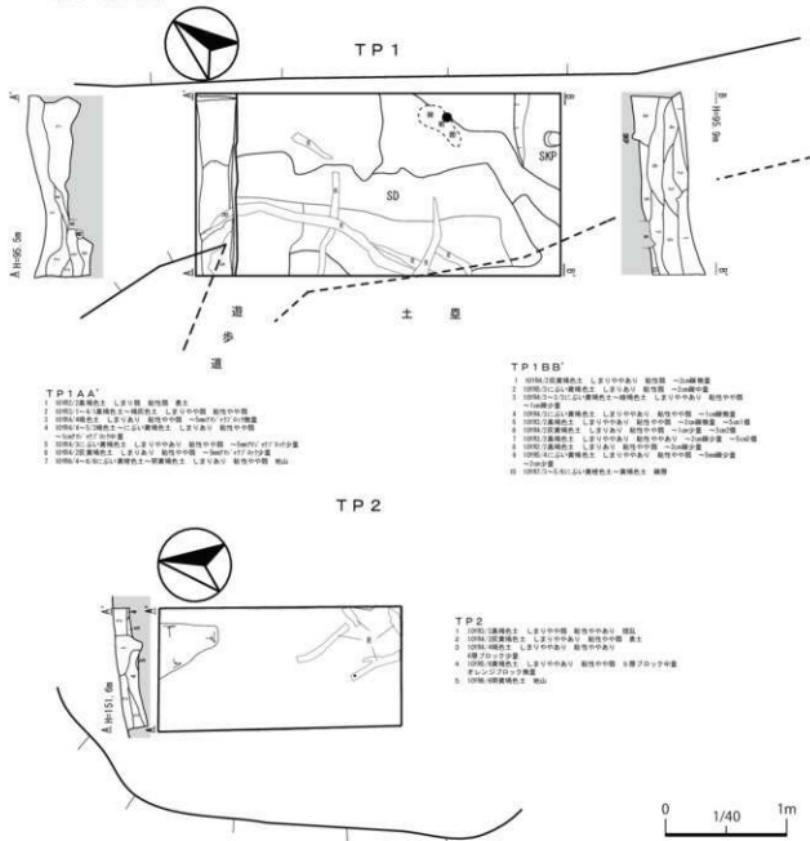


図21 TP 1、2

道に関わると思われる溝状の落ち込みが確認された。硬化面は確認されていない。TP 3は地表面観察で土橋状に加工されたことが想定される馬の背状の尾根である。盛土造成で作られていることが明らかになったほか、硬化面が確認され、道として使われていたことが判明した。TP 4は古城地区から将軍山曲輪への城内道とみられる地形のルート上にあるやや開けた箇所に相当する。ここから大堀切へは、道の南東側の曲輪に入つて、それから南の城内道へと進む。TP設定箇所は、小さな平場とも捉えることができる。城内道と考えられるルート上には硬化面は検出されなかつた。この平場は、盛土によって造成されていることが判明した。意図的に道幅を広げて、道にしては広い空間を作り出していると考えられる。捕鉢が出土したことから、近くに生活空間があったと想定でき、一段上の曲輪からの流れ込みの可能性が考えられる。

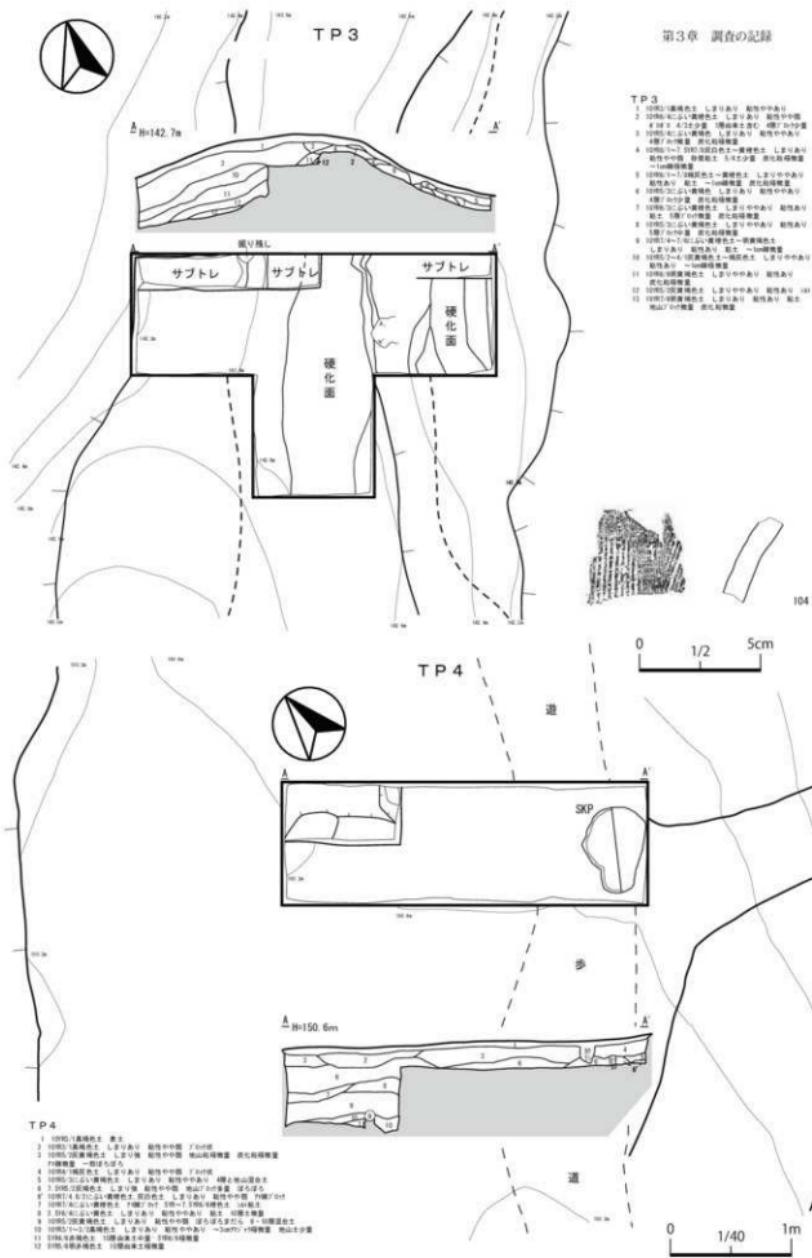


図22 TP3、4・TP4出土遺物

## 第4章 まとめ

### 1. 出土遺物

檜山城跡の第4次調査では、中世から近世初頭に属する貿易陶磁器、国産陶器や銭貨、鉄製品、線状や棒状、弾などの金属製品、鉄生産に関わる羽口、鉄滓などの遺物が出土した。接合後の陶磁器の出土数は384点で、金属製品を含めると遺物の総数は500点以上となる。遺構内出土や残存率の高い個体を中心に図化し、載録した。

#### 貿易陶磁器

調査では122点が出土した。内訳は中国産の染付66点、青磁12点、白磁37点、茶入6点、褐釉1点となる。大部分が第1調査区からの出土である。21点を図化し、うち3点は遺構内からの出土である。

S K P O O 9から出土した輪花皿(17)は数点が接合した。小杯(28)は接合したもののはかに、紋様の似通っているものがあり、同一個体の可能性もあるが、点数としては別個体としてカウントした。青磁は、点数は少ないものの、希少な器種が出土している。龍泉窯産の鉢(5)は主にH A 3に破片が散らばった様相で見つかった。S K 1 7からの出土が多い。腰折れの棱花皿(29)はH A 4 A黒褐色土層の中からの出土である。16世紀末以前の層と考えられる層で、皿自体も15世紀末からの生産と考えられるため、時期的には矛盾しない。白磁は端反皿の口縁部が出土している。哥釉の端反碗と皿(34・35)が含まれており、2個体以上が出土している。褐釉は矮小な破片1点、茶入れは福建省産が2点以上出土しているほか、第2調査区N A 1からも出土した。主な時期は16世紀から17世紀初頭で、15世紀までさかのぼる可能性のある個体も含まれる。

#### 国産陶器

中世から近世初頭に属すると考えられる遺物が251点出土した。唐津が多く、ついで瀬戸美濃大窯の出土が多い。そのほか古瀬戸(39)が1点、志野16点や、越前、信楽、備前なども見られる。器種は、大皿を含む皿、碗が主体で、越前は捕鉢と壺、備前、信楽は捕鉢である。2点出土の天目茶碗(44・45)は国産であった。産地が不明な遺物には備前系の捕鉢や、瓷器系壺が含まれる。大部分が第1調査区の出土である。

唐津は絵唐津や胎土目の皿を含む。遺構内からの出土はH A 1で多く見られるほか、S D 1 5からも出土した。H A 4、H A 4 Aでは整地層と考えられる暗褐色土層から出土しており、16世紀末以降の地業、あるいは少なくとも16世紀末の生活面と考えられる。大窯は1期から4期までを含む。4期の折縁皿(1)はH A 1で複数の遺構から出土した破片が接合した。16世紀末以降の埋め戻しによる堆積と考えられる。志野は大窯期から登窯1期までを含む。出土位置から、H A 1の堆積には17世紀初頭の造成があったことがわかる。捕鉢には備前系の形態を示すが、産地が不明な遺物が数点見られた。

第2調査区からも、大窯、唐津の出土があったが、矮小なために図化したのは唐津胎土目皿1点(103)のみである。また、将軍山地区の南に設定したTP 4からは越前産捕鉢(104)1点が出土した。

| No. | 採回No. | 図版No.  | 出土地点    | 層位他      | 器種   | 種別   | 部位    | 産地・分類       |
|-----|-------|--------|---------|----------|------|------|-------|-------------|
| 1   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK09·10 |          | 大窓   | 折縁皿  |       | 大窓4前        |
| 2   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK09·10 |          | 唐津   | 碗    |       |             |
| 3   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK11    |          | 志野   | 鉄絵皿  |       | 登1          |
| 4   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK11    | RQ2      | 石製品  | 砥石   |       | 378.5g      |
| 5   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK17    | 確認箇      | 青磁   | 鉢    |       | 龍泉窯16c前     |
| 6   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK17    | RM       | 銅鏡   | 大口圓  |       | 1.2g        |
| 7   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK22    | RP7      | 備前系  | 禮鉢   | 体部    | 備前系         |
| 8   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK22    |          | 石製品  | 砥石   |       | 294.5g      |
| 9   | 圆12   | 巻頭カラー1 | SK26    | RM9      | 鉄製品  | 釘    | 頭部有   | 1.5g 木質     |
| 10  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | RP1      | 大窓   | 皿    |       |             |
| 11  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | RP1      | 染付   | 小皿   | 口縁-底部 | B群 16c前     |
| 12  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | 確認箇      | 鉄製品  | 刀子   |       | 8.5g        |
| 13  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | 確認箇      | 鉄製品  | 釘    | 頭部有   | 1.5g        |
| 14  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | 確認箇      | 鉄製品  | 釘    |       | 1.4g        |
| 15  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | 確認箇      | 鉄製品  | 釘    | 頭部有   | 2.1g        |
| 16  | 圆12   | 巻頭カラー1 | SD15    | RM3      | 鉄製品  | 釘    |       | 7.7g        |
| 17  | 圆13   | 巻頭カラー1 | SKP009  |          | 染付   | 輪花皿  |       | B群          |
| 18  | 圆13   | 巻頭カラー1 | SKP044  |          | 大窓   | 内壳皿  |       | 大窓2         |
| 19  | 圆13   | 巻頭カラー1 | SKP044  |          | 大窓   | 丸皿   |       | 大窓3前        |
| 20  | 圆13   | 巻頭カラー1 | SKP044  | RP7      | 銅製品  | 棒状   | 頭部有   | 3.2g        |
| 21  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA2     | RP195    | 染付   | 皿    | 体部    | E群16c後半 鎏金文 |
| 22  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     | RP67     | 染付   | 小皿   | 口縁部   | 16c 四方擇     |
| 23  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     | RP121    | 染付   | 皿    | 底部    | 16c後半       |
| 24  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA4     | 2-3層     | 染付   | 皿    | 体部    | 16c後半       |
| 25  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA4     | RP174    | 染付   | 皿    | 底部    | 16c         |
| 26  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA4     | RP404    | 染付   | 皿    | 体部    | 漳州窯か        |
| 27  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA2     | RP24     | 染付   | 皿    | 底部    |             |
| 28  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     | RP54     | 染付   | 小杯   | 口-底部  | 16c         |
| 29  | 圆14   | 巻頭カラー1 | HA4A    | 黒褐色土     | 青磁   | 皿    | 口-底部  | 15c後16c前    |
| 30  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA2     | Ⅰ層       | 白磁   | 小碗   | 口縁部   | 16c         |
| 31  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA2     | RP19     | 白磁   | 小碗   | 口縁部   | 16c         |
| 32  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     | RP53     | 白磁   | 端反皿  | 口縁部   | 16c         |
| 33  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA4     | RP186    | 白磁   | 端反皿  | 口縁部   | 16c         |
| 34  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     |          | 白磁   | 碗    | 口縁部   | 哥釉 16c後半    |
| 35  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA4A    | 10YR4/2層 | 白磁   | 皿    | 口縁部   | 哥釉 16c後半    |
| 36  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     | I-II層    | 茶入   | 体部   |       | 福建省         |
| 37  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA3     | RP64     | 茶入   | 体部   |       | 福建省         |
| 38  | 圆14   | 巻頭カラー2 | HA2     | I層       | 堀輪   | 亞か袋物 | 体部    | 福建省か        |
| 39  | 圆14   | 21-1   | HA3     | I-II層    | 古瀬戸  | 盤類   | 体部    | 古瀬戸I・II     |
| 40  | 圆14   | 21-1   | HA3     | I層       | 大窓   | 皿    | 底部    | 大窓2か3       |
| 41  | 圆15   | 21-1   | HA3     | RP129    | 大窓   | 内壳皿  | 口-底部  | 大窓4前        |
| 42  | 圆15   | 21-1   | HA3-4   | RP33     | 大窓   | 内壳皿  | 口-底部  | 大窓3後        |
| 43  | 圆15   | 21-1   | HA4A    | 10YR4/2層 | 大窓か急 | 穂皿か  | 体部    |             |
| 44  | 圆15   | 21-1   | HA1     | Ⅱ層上面     | 大窓   | 天目   | 体下部   | 大窓2         |
| 45  | 圆15   | 21-1   | HA3     | Ⅱ層       | 大窓   | 天目   | 体下部   | 大窓2         |
| 46  | 圆15   | 21-1   | HA1     | Ⅱ層上面     | 志野   | 皿    | 底部    | 大窓4後        |
| 47  | 圆15   | 21-1   | HA4     | RP168    | 志野   | 皿    | 底部    | 登1          |
| 48  | 圆15   | 21-1   | HA4A    | RP241    | 志野   | 大皿   | 口縁-体部 |             |
| 49  | 圆15   | 21-1   | HA4A    | 10YR4/2層 | 志野   | 碗か向付 | 口縁部   | 登1          |
| 50  | 圆15   | 21-1   | HA5     | RP323    | 志野   | 鉄絵皿  | 口縁部   |             |
| 51  | 圆15   | 21-1   | HA5     | RP262    | 志野   | 皿    | 体下部   | 大窓4-登1      |
| 52  | 圆15   | 21-2   | HA2     | Ⅱ層       | 唐津   | 皿    | 口縁部   | 被熱          |

表2 掲載遺物一覧

| No. | 構造No. | 図版No. | 出土地点  | 層位他              | 器種   | 種別    | 部位    | 産地・分類       |
|-----|-------|-------|-------|------------------|------|-------|-------|-------------|
| 53  | 圓15   | 21-2  | HA3-5 |                  | 唐津   | 皿     | 口-底部  |             |
| 54  | 圓15   | 21-2  | HA3   | RP136            | 唐津   | 碗     | 体-底部  |             |
| 55  | 圓15   | 21-2  | HA3   | 盛土               | 唐津   | 胎土目皿  | 底部    |             |
| 56  | 圓15   | 21-2  | HA3-5 |                  | 唐津   | 皿     | 口縁-体部 |             |
| 57  | 圓15   | 21-2  | HA5   | RP292            | 唐津   | 胎土目皿  | 底部    |             |
| 58  | 圓15   | 21-2  | HA4   | RP357            | 唐津   | 盤類か大皿 | 口縁部   |             |
| 59  | 圓15   | 21-2  | HA4NA | 暗褐色土             | 唐津   | 胎土目皿  | 底部    |             |
| 60  | 圓15   | 21-2  | HA1   | II層上面            | 始唐津  | 皿     | 体部    |             |
| 61  | 圓15   | 21-2  | HA1   | II層              | 絵唐津  | 皿     | 底部    |             |
| 62  | 圓15   | 21-2  | HA2   | RP27             | 絵唐津  | 向付か楕  | 口-体部  |             |
| 63  | 圓15   | 21-2  | HA2   |                  | 絵唐津  | 碗     | 口縁部   |             |
| 64  | 圓15   | 21-2  | HA4   | 表土               | 絵唐津  | 皿     | 底部    |             |
| 65  | 圓16   | 21-3  | HA3-4 | △ <sup>下</sup> 仆 | 備前   | 壺鉢    | 口縁部   | 16c末        |
| 66  | 圓16   | 21-3  | HA3   | 2層               | 備前系  | 壺鉢    | 口縁部   |             |
| 67  | 圓16   | 21-3  | HA5   | RP255            | 備前系  | 壺鉢    | 底部    |             |
| 68  | 圓16   | 21-3  | HA3   | RP163            | 備前系  | 壺鉢    | 口-体部  |             |
| 69  | 圓16   | 21-3  | HA3   | RP65             | 越前   | 壺鉢    | 口縁部   |             |
| 70  | 圓16   | 21-3  | HA3   | RP146            | 越前   | 壺鉢    | 体部    |             |
| 71  | 圓16   | 21-3  | HA4NA | 黒褐色土             | 越前   | 壺鉢    | 体部    | 16c         |
| 72  | 圓16   | 21-3  | HA4NA | 暗褐色土             | 越前   | 壺鉢    | 体部    | 16c         |
| 73  | 圓16   | 21-3  | HA4NA | RP331            | 越前   | 壺     | 底部    | 16-17c      |
| 74  | 圓16   | 21-3  | HA4   | 2-3層             | 信楽   | 壺鉢    | 体部    |             |
| 75  | 圓16   | 21-3  | HA5   | RP254            | 信楽   | 壺鉢    | 体部    |             |
| 76  | 圓16   | 21-3  | HA3   | RP118            | 信楽   | 壺鉢    | 底部    |             |
| 77  | 圓16   | 22-1  | HA4NA | 黒褐色土             | 土器   | 瓦質    |       |             |
| 78  | 圓16   | 22-1  | HA4NA | 黒褐色土             | 土器   | かわらけ  | 底部    |             |
| 79  | 圓16   | 22-1  | HA1北半 | II層              | 土器   | かわらけ  | 口-体部  |             |
| 80  | 圓16   | 22-1  | HA4   | 2-3層             | 土器   | かわらけ  | 口-体部  |             |
| 81  | 圓16   | 22-1  | HA1   | RP463            | 土器   | かわらけ  | 口縁部   | 油煙付層        |
| 82  | 圓17   | 22-1  | HA3   | RP49             | 土製品  | 土錐    |       |             |
| 83  | 圓17   | 22-1  | HA5   | RP261            | 土製品  | 土錐    |       |             |
| 84  | 圓17   | 22-2  | HA1   | RM12             | 鉄製品  | 釘     |       | 13.3g       |
| 85  | 圓17   | 22-2  | HA1   | RM13             | 鉄製品  | 鷲状    |       | 30.7g       |
| 86  | 圓17   | 22-2  | HA2   | RM16             | 鉄製品  | 板状    |       | 5.3g        |
| 87  | 圓17   | 22-2  | HA3   | RM113            | 鉄製品  | 刀子    |       | 15.9g       |
| 88  | 圓17   | 22-2  | HA3   | RM58             | 鉄製品  | 刀子    |       | 1-2層        |
| 89  | 圓17   | 22-2  | HA3   | RM72             | 鉄製品  | 刀子    |       | 17.7g       |
| 90  | 圓17   | 22-2  | HA5   | RM257            | 鉄製品  | 釘     |       | 6.1g 木質     |
| 91  | 圓17   | 22-2  | HA5   | RM274            | 鉄製品  | 釘     |       | 26.6g       |
| 92  | 圓17   | 22-2  | HA5   | RM274            | 鉄製品  | 釘     |       | 9.3g        |
| 93  | 圓17   | 22-3  | HA2   | RM39             | 銅製品  | 針状    |       | 1.9g        |
| 94  | 圓17   | 22-3  | HA2   | RM44             | 銅製品  | 針状    |       | 0.5g        |
| 95  | 圓17   | 22-3  | HA3   | 盛土               | 銅製品  | 球状    |       | 1.2g        |
| 96  | 圓17   | 22-3  | HA5   | RM296            | 銅製品  | 碗か    | 口縁部   | 1.9g        |
| 97  | 圓17   | 22-3  | HA3   | 盛土               | 銅質   | 永樂通寶  |       | 1.4g        |
| 98  | 圓17   | 22-3  | HA2   | 確認面              | 金属製品 | 弾     |       | 7.7g        |
| 99  | 圓17   | 22-3  | HA4   | RM182            | 金属製品 | 弾     |       | 11.8g       |
| 100 | 圓17   | 22-3  | HA5   | RM243            | 金属製品 | 弾     |       | 5.9g        |
| 101 | 圓17   | 22-3  | HA2   | IV層              | 琥珀   | 玉状    |       | 0.2g        |
| 102 | 圓17   | 22-3  | HA1   | RM8              | 碗形澤か | 鉄滓    |       | 109.1g      |
| 103 | 圓18   | 21-2  | NA    | RP18             | 唐津   | 胎土目皿  | 底部    | 外面から底部にスス付層 |
| 104 | 圓22   | 21-3  | TP4   | 3層               | 越前   | 壺鉢    | 体部    |             |

表2 掲載遺物一覧

時期は16世紀から17世紀初頭で、1610年より新しい時期を含む。なお、古瀬戸は後期I・II期で、唯一14世紀に属する遺物である。

#### 土器・瓦質土器

土器が15点出土した。うち7点はかわらけ(78~81)である。端反の口縁部には、油煙の付着したものがみられる(81)。灯明具として使用されたと考えられる。また、3点の瓦質土器が出土した。うち1点を図化した(77)。

#### 金属製品・土製品・鉄滓など

鉄製品は大部分が釘、棒状の形態を示す。ほかに、刀子(12、87~89)、筒状(85)、板状(86)などの鉄製品が出土している。SK26からは10点近くの釘が出土しており、折れたものや曲がったものなどがみられる。鉄製品には木質を残すものが数点みられた。金属製品の中で少なからず磁着するものを鉄製品と判断した。第2調査区で釘、板状の鉄製品、本丸トレーナーから釘1点が出土したのを除き、大部分が第1調査区からの出土である。

銅製品には、銭貨のほか、線状2点(93・94)、球状1点(95)などが含まれる。そのほか、弾と考えられる球状の遺物が3点(98~100)出土した。銭種は1字以上判読できるものが水楽通宝1点(97)、大□□宝1点(6)、□聖□□1点で、そのほかにも微細な破片が数点出土している。径は水楽通宝22mm、大□□宝推定24mmで、□聖□□の残存率は4分の1に満たないために不明である。弾の径は11~13mmである。

土製品は、土錐(82・83)やフイゴ羽口と考えられる破片が数点出土している。数には含まれないが、主にHA5から、焼成された土の塊や、溶融した破片なども出土した。

鉄滓は微細なものを含め30点以上が出土した。主に鍛冶滓と考えられる。比較的大きな1点を図化した(102)。HA1からの出土で、微細なものはHA5付近を中心に出土した。そのほかに、磁着する塊が11点出土しており、鉄塊の可能性がある。これら鉄生産に関わる遺物の詳細については今後検討する必要がある。

#### 小結

第1調査区では、平場部分で概ね16世紀から17世紀初頭に遺物が出土した。遺構の多くはIV層あるいは地山面での検出で、ほぼ同時期に属すると考えられる。遺構の切合いから、SK10やSKPOO9がSKPO44に切られており、SKPOO9からは16世紀後半の中国産染付皿が出土し、SKPO44からは唐津皿が出土していることから、少なくとも2時期の使用が想定される。しかしながら、平場の堆積土は一様ではなく、平場造成の痕跡も明確でないため、層位的な把握が困難であった。遺構外出土遺物からも、17世紀初頭までの遺物が出なくなる層との区別はできなかった。

HA4、4A、5においては、盛土造成の痕跡が確認された。今回の調査では地山まで到達せず、目的とした虎口の痕跡は今年度調査では検出に至らなかった。しかしながら、盛土造成の黒褐色土層中から青磁皿が出土したことや、暗褐色土層で唐津や志野が出土したことから、16世紀後半以前の盛土造成と、17世紀初頭の地業痕跡が明らかになった。さらにその上に盛土が形成されているが、遺物の出土が見られず、17世紀初頭以降の造成ということ以上には時期判断が難しい。少なくとも近代の

公園造成以前にこれらが行われたということができる。

碗や皿などの遺物から日常・儀礼的な空間があったほか、擂鉢があることから調理を行う場所の存在や、鉄生産関連の遺物からは鍛冶工房的な作業空間の存在が想定される。

第2調査区は、三の丸からの公園の登り道の進入を想定した部分に設定した。堆積が浅く、近代以降の削平を受けている可能性がある。近代以前の層が残るもの、多くは近代に搅乱された層からの出土である。日常・儀礼的な空間が想定できる。

今回の調査では、第1調査区で古瀬戸後期の盤類1点が出土したほかは、ほぼ16世紀から17世紀初頭の時期に収まる。「本丸」の使用時期はこの時期と考えられ、安東氏国替前から多賀谷氏入城のころまでにあたる。日常的な器の一定量の出土から、中世の城主空間として使われた空間を継承したものと解釈できる。

現状変更のための調査からは、将軍山地区南のTP4から越前産擂鉢(104)1点が出土した。わずかではあるものの、16世紀には将軍山地区の南に日常の空間があったことが想定される。

## 2. 全体の成果と課題

第1調査区は「本丸」曲輪の建物の有無と規模、虎口の有無と形態を調べることを目的に設定した。3年計画の1年目であり、曲輪東側の、虎口想定地点に近い範囲に調査区を設けた。

「本丸」標高は146m前後で、目視ではほぼ平坦な、段差のない一つの曲輪として認識していた。矩形などの規格性を持って調整されたものではないが、縁辺は直線的な組み合わせで構成されている。その中で、一部角が欠けているような様相を呈する場所が數カ所見られるほか、東辺の中央付近には大きく括れた部分がみられる。これまでに縄張り調査でも括れ部分には虎口の可能性が指摘されている。調査区はHA1~3が平場、4、4A、5が括れ部分に向かってやや落ち込む地形に設定した。建物の可能性のある柱穴はHA1~3で検出され、並ぶ可能性はあるものの、構成する柱穴数が少なく、明確でない。しかしながら、調査区の東端に検出されたため、これ以上は、曲輪の東の縁に作られた建物ということになるため、曲輪の主体となる建物ではないと判断した。

検出面は一部地山まで達しており、城の造成で、山を削って平地を作り出している可能性もある。

HA2、3では、括れ部分の方向に向かって溝が伸びており、虎口が存在したとすれば、何らかの関連が想定できる。

虎口想定部分は、今年度調査では、虎口施設の痕跡は検出できなかった。しかしながら、地山までは達しなかったため、今後の調査によっては、痕跡が検出される可能性がある。想定した硬化面や門などの施設の痕跡ではないが、HA4Aでは、ステップ状の痕跡が見つかった。調査によって、括れ部分に向かう落ち込みの造成の様相が明らかになった。16世紀後半以前に盛土造成が行われるとともに、曲輪の中に一段低い面を作り出している可能性がある。次に16世紀末から17世紀初頭にその面を整地した生活面を構築している。その後の盛土造成で現況に近い地形が作られている。ステップ状の造構は16世紀後半以前の盛土の前に構築されたものと考えられる。また、HA5では粘土の広がりが面的に検出され、作業面であるのか、盛土の一部であるのか判断し難いが、黒褐色土層より上層で検出された。これらのことから、時期ごとに複数の使用があつたことがわかる。虎口の検出や建物の規

模が明らかにならなかつた。建物を構成する柱穴の存在や、曲輪東縁辺の使用的様相の解明など一定の成果があつたものの、本来の目的は達せられたとはいはず、今後は虎口の確認を継続するとともに、曲輪の全体を探るために、建物の位置の確定を進める必要があると考える。堆積が一樣でないことからも、曲輪全体で層位を記録し、城の建物が建てられた層位の把握も同時に必要であろう。

第2調査区は、現在遊歩道として整備されている「三の丸」から「二の丸」への進入口付近に設定し、公園造成以前の痕跡があるかを調査した。堆積が薄く、近代の削平の可能性が考えられる。それ以前の層が残っているが、中世の可能性があるものの時期は判然としない。進入路あるいは曲輪の北縁に向かって落ち込みが確認できるが、硬化面などは確認できない。更に、現地形では進入路に向かって平らに造成されており、これが城の最終形態を示すと仮定すれば、遺物の最終年代の16世紀末には少なくとも道ではなかつたことになる。

「二の丸」については、今後建物の有無や規模を確かめる調査を行うこととしているが、進入路について、「二の丸」の構造全体を見極めながら検討していくために、堆積の様相と、南側の土壘状の地形についても調査を進めていく。

「本丸」トレントは、曲輪造成の痕跡を確認することを目的に設定した。盛土によって切岸が造成されていることが判明したほか、「本丸」北西側では平場も盛土によって広げられていることが明らかになった。遺物は釘1点のみで、陶磁器の出土はなかつたため、時期は判然としない。しかしながら、土坑の確認プランが検出されたことや、炭の薄い堆積が面的に確認されたことから、現地形を城の最終形態として、それ以前に低い面を生活面とした時期があつたことが明らかになった。

この部分は「二の丸」から「本丸」への唯一の連絡路であり、虎口空間の改変であったかもしれない。現況での切岸の形態から、切岸と曲輪の形状を整えるための造成に伴う盛土造成によって形成されていると考えることができる。

基準杭や案内板の設置箇所について行った、現状変更のための試掘調査では、中館から茶園にかけての尾根道に、道の造成に関わると考えられる掘り込みが見つかったほか、城の南から城外に延びる白坂道にも、造成の痕跡と硬化面が検出された。これによって城の中の道の存在や、広域な造成の様子が確認できた。また、将軍山の南でも道として機能したと考えられる平場の造成痕跡が確認された。基準杭・案内板については、試掘の範囲内の設置が可能である。

#### 【参考文献】

- 愛知県 2007 「愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潟戸系」
- 秋田地所(有)・秋田市教育委員会 1981 「後城遺跡発掘調査報告書」
- 男鹿市教育委員会 2013 「国指定史跡脇本城跡一括報告書」
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2016 「特別企画展日本磁器の源流」
- 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005 「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集」
- 日本貿易陶磁研究会 1998 「貿易陶磁研究」 No.1-5 六一書房
- 能代市教育委員会 2004 「柏山城と柏山城跡」
- 萩原三雄・中井均編 2016 「中世城館の考古学」 高志書院
- 藤澤良祐 2008 「中世瀧戸窯の研究」
- 「肥前磁器の流通について—17世紀前半の出土資料を中心に—」平成28年度 第44回東洋陶磁学会有田大会発表資料
- 水澤幸一 2009 「日本海流通の考古学」 高志書院



第1調査区調査前（南→）



第1調査区全景（南東→）



第2調査区調査前（南東→）



「本丸」トレンチ調査前（東→）



SKO1・13土坑  
(北東→)



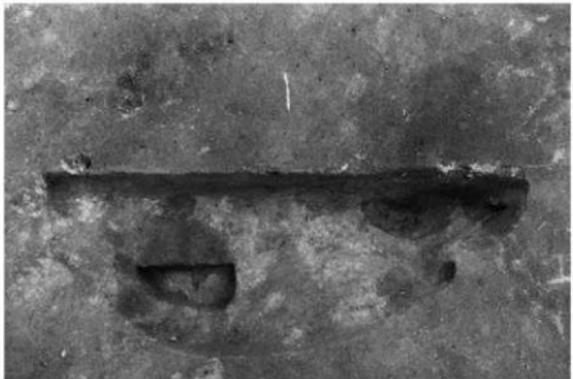
SKO1・13土坑土層  
(北東→)



SKO2土坑土層  
(南東→)

SKO3土坑

(南→)



SKO4土坑半さい状況

(南西→)



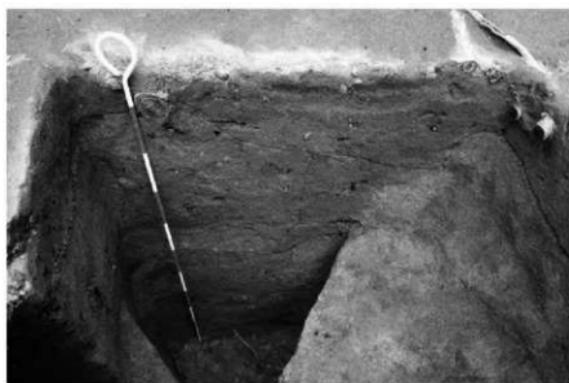
SKO5土坑土層

(南東→)





SKO 9土坑土層  
(南西→)



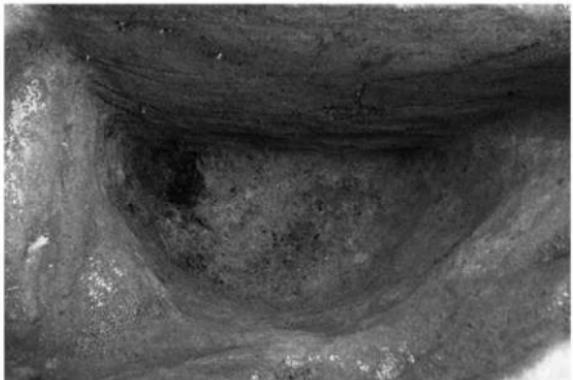
SK 1 O土坑土層  
(南西→)



SK 1 O土坑遺物出土状況  
(北西→)

SK11土坑半さい状況

(南西→)



SK11土坑遺物出土状況

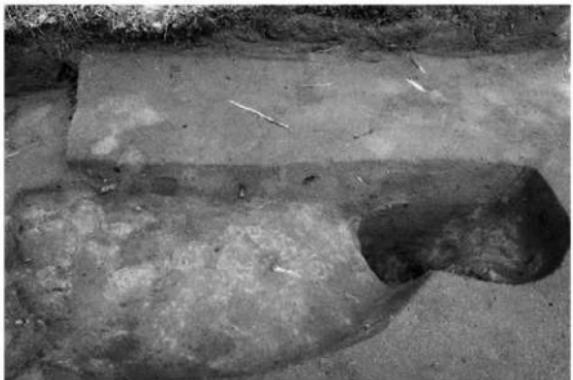
(南西→)



SK12土坑・SKPO17

柱穴様ピット土層

(南西→)

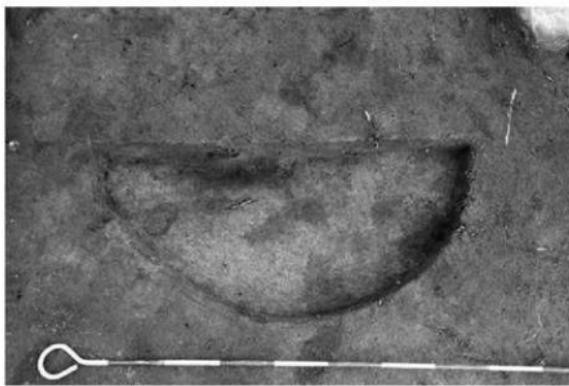




SK 18 土坑半さい状況  
(南西→)



SK 19 土坑上層  
(南西→)



SK 45 土坑半さい状況  
(南西→)

SKP008柱穴様ピット土層

(北西→)



SKP009柱穴様ピット土層

(北西→)

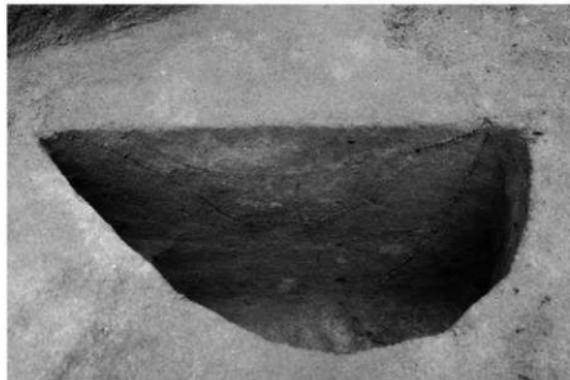


SKP009柱穴様ピット

遺物出土状況

(西→)

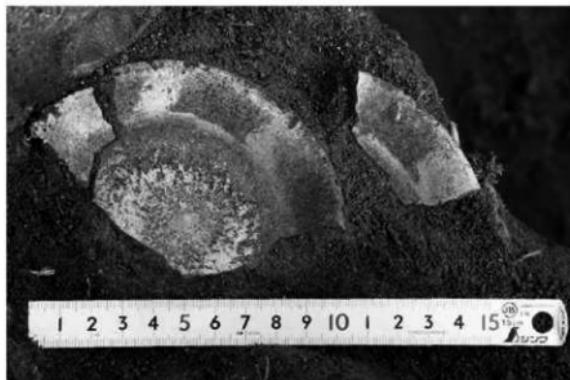




SKP010柱穴ピット土層  
(南→)



SKP044・SK10・  
SKP009切合い状況  
(北西→)



SKP044遺物出土状況  
(西→)

H A 1 遺物出土状況



S K 2 6 土坑土層  
(北東→)

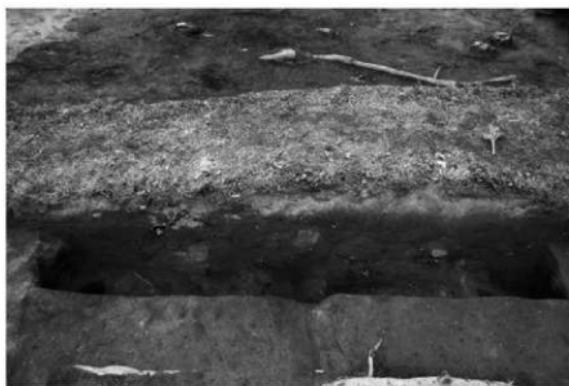


S K 2 8 土坑半さい状況  
(北東→)





S K 5 土坑土層  
(南西→)

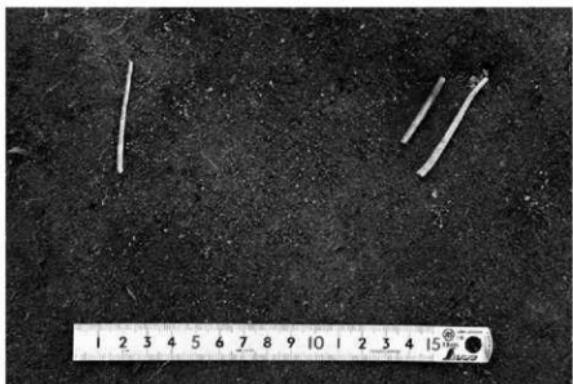


S D 1 5 溝跡・S K 1 6 土坑土層  
(南東→)



S D 1 5 溝跡調査終了状況  
(南→)

銅製品出土状況



弾出土状況



SK22土坑土層  
(南西→)





SK 22土坑遺物出土状況  
(北東→)



SK 17土坑・SD 35溝跡土層  
(西→)



SK P 067柱穴様ピット土層  
(南東→)

SD35溝跡・SKP065

柱穴様ピット土層

(北→)



HA4-AA' 土層

(東→)



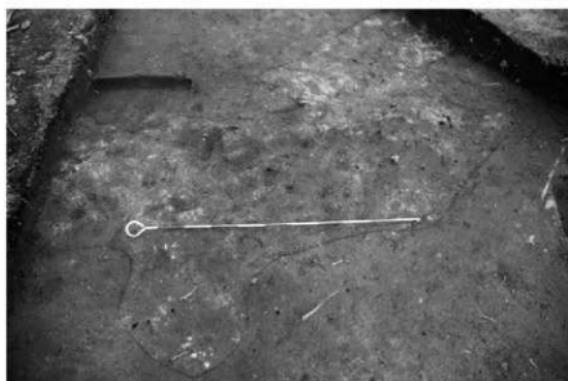
HA5調査終了状況

(南東→)





HA 5 AA' 土層北半  
(南西→)



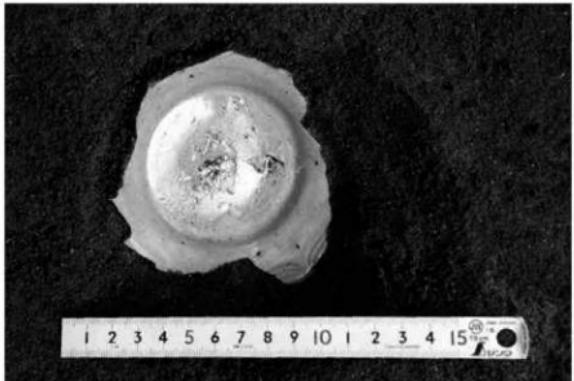
HA 5 粘土範囲  
(北→)



HA 4 A 黒褐色土層検出状況  
(東→)

HA 4 A 青磁出土状況

(北東→)



HA 4 A BB' 土層

(南東→)



HA 4 A 北東半 AA' 土層

(南西→)





第2調査区調査終了状況  
(南→)



「本丸」トレンチ調査終了状況  
(南→)



「本丸」トレンチ北半土層  
(南西→)

TP 1 調査前

(南東→)



TP 1 調査終了状況

(北西→)



TP 1 AA' 土層

(南東→)





TP 2 調査終了状況  
(北→)



TP 2 土層  
(南→)



TP 3 調査終了状況  
(南西→)

TP 3 深掘り土層

(南西→)



TP 4 調査状況

(南西→)



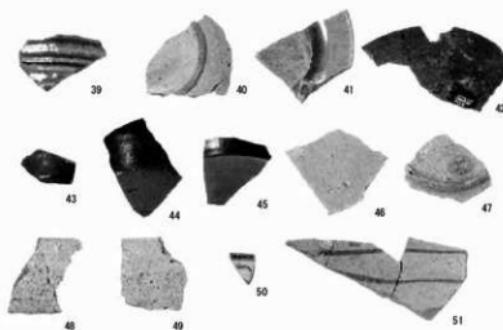
TP 4 深掘り土層

(南西→)



1. 遺構外出土遺物

陶磁器②



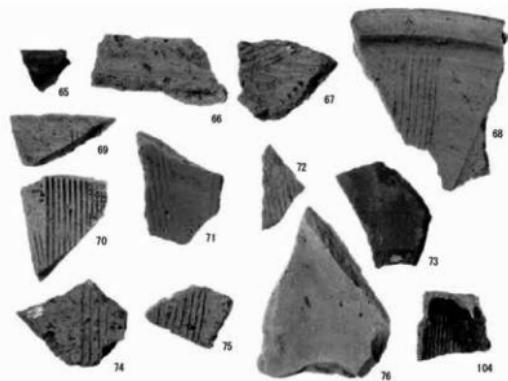
2. 遺構外出土遺物

陶磁器③

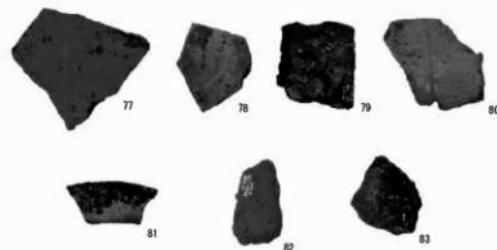


3. 遺構外出土遺物

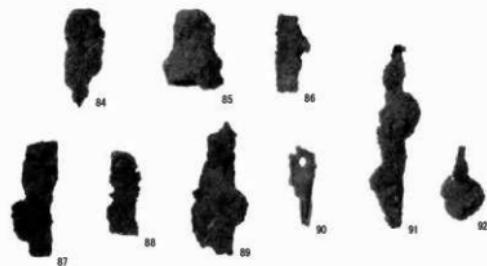
陶磁器④



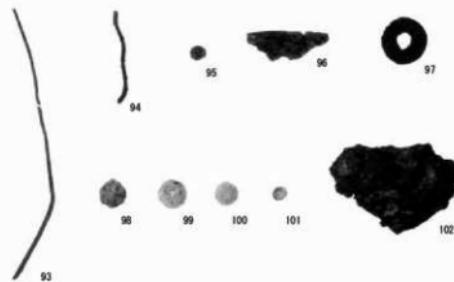
1. 造構外出土遺物  
瓦質土器・土器・土製品



2. 造構外出土遺物  
鉄製品



3. 造構外出土遺物  
金属製品・琥珀・鉄滓



報告書抄録

| ふりがな  | くにしていしせきひやまあんどうじょうかんあとひやまじょうあとよん             |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
|-------|--|-----------|----------------------------|------------------|--|---------------------------|----------------|-----------------------------|
| 書名    | 国指定史跡檜山安東氏城館跡 檜山城跡IV                         |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
| 副書名   | 令和元年度第4次発掘調査報告書                              |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
| 編著者名  | 播磨芳紀   |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
| 編集機関  | 能代市教育委員会                                     |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
| 所在地   | 〒018-3192 秋田県能代市二ツ井町字上台1番地1 TEL 0185-73-5285 |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
| 発行年月日 | 西暦2020年3月31日                                 |           |                            |                  |  |                           |                |                             |
| 所収遺跡名 | 所在地  | コード       |                            | 北緯               | 東経   | 調査期間                      | 調査面積           | 調査原因                        |
|       |  | 市町村       | 遺跡番号                       | °' "             | °' "                                       |                           | m <sup>2</sup> |                             |
| 檜山城跡  | 秋田県能代市<br>檜山字古城、<br>大間木地内                    | 05202     | 202-2<br>-109              | 40°<br>9'<br>45" | 140°<br>7'<br>21"                          | 20190522<br>~<br>20191127 | 208            | 檜山城跡<br>環境整備<br>に伴う発<br>掘調査 |
| 所収遺跡名 | 種別   | 主な時代      | 主な遺構                       |                  | 主な遺物                                       |                           | 特記事項           |                             |
| 檜山城跡  | 城館跡  | 中世<br>~近世 | 道路<br>土坑<br>溝状遺構<br>柱穴様ピット |                  | 磁器<br>陶器<br>石製品<br>土製品<br>鉄製品<br>銅製品<br>鉄滓 |                           |                |                             |

能代市文化財調査報告書第11集  
国指定史跡檜山安東氏城館跡  
**檜山城跡 IV**  
—令和元年度第4次発掘調査報告書—

印刷・発行 令和2年3月  
編集・発行 能代市教育委員会  
〒018-3192  
秋田県能代市二ツ井町字上台1番地1  
TEL 0185-73-5285  
FAX 0185-73-6459  
製本・印刷 株式会社 大潟印刷





